Shellコマンドリファレンス Ver1.30

目次

1. Shell コマンドの使い方

■はじめに

本製品では、ターミナルソフトを使用し、Shell コマンドを入力することで、本製品の設定を行うことができます。

このマニュアルでは、Shell コマンドについて解説しています。

※Shell コマンドの使用方法や、使用した結果については、サポート対象外とさせていただきます。

■設定方法について

LAN ポートに接続したパソコンから設定する方法と、RS-232C シリアルポートに接続したパソコンから設定する方法があります。

●LAN ポートに接続したパソコンから設定する

LAN ポートに接続したパソコンから Shell コマンドを入力するには、telnet を使用します。

次の手順で操作すると、Shell コマンドが入力できるようになります。

(1) telnet で本製品「192.168.0.1」(購入時の IP アドレスの設定)にアクセスします。

(2) 「login:」などログインプロンプトのあとに、本製品のログイン ID(購入時は「admin」です)を入力します。

(3) 「password:」のあとに、本製品のパスワード(購入時は設定されていません)を入力します。

以降、Shell コマンドで設定できます。

●RS-232C シリアルポートに接続したパソコンから設定する

あらかじめ市販の RS-232C ストレート(D-sub9 ピンメスーメスストレート)ケーブルを別途ご用意ください。

次の手順で操作すると、コマンドの入力が可能になります。

(1) 上記の「LAN ポートに接続したパソコンから設定する」の方法で、LAN ポートに接続したパソコンから telnet で本製品にアクセスします。

(2) コンソールポート(RS-232C シリアルポート)の状態を、AT コマンドモードから、コンソールモードに切り替えます。次のように入力します。

```
ta dte mode console
```

(3) パソコンと本製品の RS-232C ポートを接続します。

(4) Shell コマンドの入力には、ターミナルソフトを使用します。最初に、ターミナルソフトの通信速度を 115.2kbps 固定に設定してください。

(5) 「login:」などログインプロンプトのあとに、本製品のログイン ID(購入時は「admin」です)を入力します。

(6) 「password:」のあとに、本製品のパスワード(購入時は設定されていません)を入力します。

以降、Shell コマンドで本製品の設定を行うことができます。

※設定が終了し、AT コマンドモードに戻すときは、LAN ポートに接続したパソコンから次のように入力してください。

```
ta dte mode dte
```

【注意】

コマンドによっては、再起動時に有効になるものもあります。

コマンド入力後は、save コマンドを使用して設定を保存したあと、再起動してください。

2. アナログ機能用設定コマンド

コマンド名	analog call	
タイトル	発信禁止機能の設定	
説明	指定した TEL ポートからの発信を禁止します。 すべての発信を禁止することもできますが、緊急電話番号(110, 118, 119, 171)の場合のみ発信を許可するように設定することもできます。	
書式	analog call {port} {mode}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{mode}	allow　すべての発信を許可する(初期値) prohibit　すべての発信を禁止する sos　緊急電話番号以外の発信を禁止する

コマンド名	analog device	
タイトル	ポート接続機器の設定	
説明	TEL ポートに接続されているアナログ機器の種類を選択します。 発信時にここで選択した機器種別が、ISDN の呼情報に付加されます。 なお、無鳴動着信対応の FAX を接続したポートで「サイレント FAX」を選択すると、呼び出し音なしで受信することができます。	
書式	analog device {port} {device}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{device}	接続機器 phone　電話 modem　モデム／FAX 機能付電話(初期値) fax　ファクシミリ sfax1　サイレント FAX1 sfax2　サイレント FAX2

コマンド名	analog dialin {0..3} dialtr switch	
タイトル	着信転送モードの設定	
説明	擬似着信転送、またはフレックスホンの着信転送をするかしないかを設定します。	
書式	analog dialin {0..3} dialtr switch {switch}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{switch}	off　転送しない(初期値) on　転送する ※ 転送ボタンは搭載していないので、パラメータ n=2(転送ボタンを押しているときのみ転送する)には対応していません。

コマンド名	analog dialin {0..3} fwdnum	
タイトル	着信転送番号の設定	
説明	着信転送する相手先の回線番号を設定します。 登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ＜注意＞ **転送先の回線番号に、サブアドレスを指定することはできません。**	
書式	analog dialin {0..3} fwdnum {number}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{number}	着信転送番号(半角数字 32 桁まで)(初期値:空白)

コマンド名	analog dialin {0..3} lmsg	
タイトル	L モードメッセージ到着お知らせ機能の設定	
説明	L モードメッセージ到着お知らせを行うかどうかを設定します。	
書式	analog dialin {0..3} lmsg {port}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{port}	L モードメッセージ到着お知らせを行うポート none　お知らせしない(初期値) port1　ポート1にのみお知らせ port2　ポート2にのみお知らせ

コマンド名	analog dialin {0..3} number	
タイトル	登録(ダイヤルイン)番号の設定	
説明	契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録します。 登録する契約者回線番号およびダイヤルイン番号は、「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 INS ネット 64 契約時にダイヤルイン契約を行っている場合、登録した契約者回線番号およびダイヤルイン番号は、INS ボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービスなどを利用する際に必要となる発信者番号として通知することができます([発信者番号]の設定も行ってください)。	
書式	analog dialin {0..3} number {number}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{number}	契約者回線番号およびダイヤルイン番号(半角数字 32 桁まで)(初期値:空白)

コマンド名	analog dialin {0..3} outsound
タイトル	外線呼び出し音の設定
説明	ダイヤルイン登録番号ごとに、外線が着信したときの呼び出し音を設定することができます。 **※ TEL ポートに FAX やモデムをつないでいる場合、呼び出し音を変更すると着信できなくなることが**

	あります。その場合は、呼び出し音１に戻してください。	
書式	analog dialin {0..3} outsound {port} {sound}	
パラメータ	{0..3}	0～3　ダイヤルイン登録番号
	{port}	1～2　ポート番号
	{sound}	sound1　呼び出し音1 (初期値) sound2　呼び出し音2 sound3　呼び出し音3 silent　無鳴動着信

コマンド名	analog dialin {0..3} recvincall	
タイトル	キャッチホン利用の設定	
説明	通信中に着信要求があった場合、着信させたいときは、[する]を選択します。 マルチアンサーまたはキャッチホン(コールウェイティング)を利用するときは、必ず[する]を選択してください。 キャッチホンの設定は、[着信ポート]で選択したポートに対してのみ有効になります。 例えば、TEL ポート 1 だけに着信する設定のとき、TEL ポート 2 ではキャッチホンは使用できません。	
書式	analog dialin {0..3} recvincall {port} {mode}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{port}	1～2　ポート番号
	{mode}	off　キャッチホンを利用しない(初期値) on　キャッチホンを利用する

コマンド名	analog dialin {0..3} recvport	
タイトル	着信ポートの設定	
説明	ダイヤルイン番号で着信要求があったとき、どのポートに着信させるかを選択します。 [空きポートに着信(ポート1優先)]または[空きポートに着信(ポート2優先)]を選択すると、まず優先ポートに着信し、時間差をつけて他のポートにも着信します。	
書式	analog dialin {0..3} recvport {port}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{port}	none　どのポートにも着信しない port1　ポート1に着信 port2　ポート2に着信 both　両ポートに着信(初期値) free1　空きポートに着信(ポート1優先) free2　空きポートに着信(ポート2優先)

コマンド名	analog dialin {0..3} subaddr	
タイトル	サブアドレスの設定	
説明	[登録(ダイヤルイン)番号の設定]で登録したダイヤルイン番号にサブアドレスを付けて登録します。 サブアドレスを登録すると、サブアドレス付きのダイヤルイン番号へ着信要求があったとき、該当するTEL ポートだけを呼び出すことができます。	
書式	analog dialin {0..3} subaddr {port} {subaddr}	
パラメータ	{0..3}	0～3　ダイヤルイン登録番号
	{port}	1～2　ポート番号
	{subaddr}	サブアドレス(半角数字 19 桁まで)(初期値:空白)

コマンド名	analog dialin {0..3} subglobal	
タイトル	サブアドレスグローバル着信の設定	
説明	サブアドレスなしで着信要求があった場合、着信させたいときは、[する]を選択します。サブアドレスグローバル着信の設定は、サブアドレスを登録しているダイヤルイン番号に対してのみ有効になります。	
書式	analog dialin {0..3} subglobal {port} {mode}	
パラメータ	{0..3}	0～3　ダイヤルイン登録番号
	{port}	1～2　ポート番号
	{mode}	off　サブアドレスグローバル着信を行わない(初期値) on　サブアドレスグローバル着信を行う

コマンド名	analog dialin {0..3} timedelay	
タイトル	優先着信時間の設定	
説明	[着信ポートの設定]で[空きポートに着信(ポート 1 優先)]または[空きポートに着信(ポート 2 優先)]を選択した場合、ポート 1 とポート 2 の着信の時間差を設定します。0 秒に設定すると、優先ポートのみに着信し、優先ポートが使用中のときは空いているポートに着信します。	
書式	analog dialin {0..3} timedelay {time}	
パラメータ	{0..3}	0～3 ダイヤルイン登録番号
	{time}	優先着信時間(秒)[0,5,10,..60,75,90,..165](初期値:0)

コマンド名	analog directcall
タイトル	内線の直接発信の設定
説明	[する]を選択すると、発信音が聞こえているときに、アナログ通信機器で「＊0」を押すと、内線通話できるようになります。外線と通話中は使用できません。
書式	analog directcall {off|on}

パラメータ	{off|on}	off　内線の直接発信をしない on　内線の直接発信をする(初期値)

コマンド名	analog flexphone call3p	
タイトル	フレックスホンの三者通話を行うかどうかの設定	
説明	三者通話は、通信中に別の相手を呼び出して、3 人で通話できる機能です。 三者通話を使用するときは、[する]を選択します。 ※1つの TEL ポートで三者通話(切替モード、ミキシングモード)をしている間は、他の TEL ポートで三者通話および通信中転送を利用できません。	
書式	analog flexphone call3p {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　三者通話をしない(初期値) on　三者通話をする

コマンド名	analog flexphone calltrans	
タイトル	フレックスホンの通信中転送を行うかどうかの設定	
説明	通信中転送は、通信中に別の相手を呼び出して、その通信を転送する機能です。 通信中転送を使用するときは、[する]を選択します。 ※ 1つの TEL ポートで転送の操作をしている間は、他の TEL ポートで通信中転送および三者通話を利用できません。 ※ 通信中転送は、相手側から着信された通信を転送するときだけに利用できます。	
書式	analog flexphone calltrans {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　通信中転送をしない(初期値) on　通信中転送をする

コマンド名	analog flexphone callwait	
タイトル	フレックスホンのキャッチホン(コールウェイティング)を利用するかどうかの設定	
説明	キャッチホン(コールウェイティング)は、通信中に別の相手から着信があったときに通信中の相手を保留し、その着信を受けることができる機能です。 キャッチホン(コールウェイティング)を使用するときは、[する]を選択します。 ※ キャッチホン(コールウェイティング)を使用するときは、この項目のほかに、[アナログ設定]→[ダイヤルイン設定]画面の[ダイヤルイン登録番号 0～3]で、着信ポートとキャッチホンの設定が必要です。 ※ キャッチホン(コールウェイティング)を利用する TEL ポートには電話機をつなぎ、[アナログ設定]→[ポートごとの設定設定]画面の[ポート接続機器]で「電話」または「モデム／FAX 機能付電話」を選択してください。電話以外のアナログ機器では、この機能を使用できません。	
書式	analog flexphone callwait {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　キャッチホン(コールウェイティング)をしない(初期値) on　キャッチホン(コールウェイティング)をする

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">analog flexphone dialtrans</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">フレックスホンの着信転送を行うかどうかの設定</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">着信転送は、かかってきた電話を自動的に他の番号に転送する機能です。
着信転送を使用するときは、[する]を選択します。
※ 着信転送を使用するときは、この項目のほかに、[アナログ設定]→[ダイヤルイン設定]画面の[ダイヤルイン登録番号 0～3]で、着信転送と転送先の回線番号の設定が必要です。
＜注意＞
転送する場合、本製品から転送先までの電話料金は、電話をかけてきた相手側にかかります。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">analog flexphone dialtrans {off|on}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{off|on}</td><td>off　着信転送をしない（初期値）
on　着信転送をする</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">analog global</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">グローバル着信の設定</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">グローバル着信は、ダイヤルイン契約時に契約者回線番号で電話がかかってきたとき、通信できるすべてのポートを呼び出すようにする NTT のサービスです。グローバル着信を利用すると、1 つのダイヤルイン番号だけで 2 つの TEL ポートを区別して着信させることができます。
契約者回線番号で電話がかかってきたとき着信する場合は「する」を、契約者回線番号で電話がかかってきても着信しない場合は「しない」を選択します。
着信条件はグローバル着信の設定だけでなく、ダイヤルインの設定によっても変わります。
＜注意＞
ダイヤルインの契約をしていないときは、購入時の設定のままにしてください。着信できなくなります。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">analog global {off|on}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{off|on}</td><td>off　グローバル着信をしない
on　グローバル着信をする（初期値）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">analog hooking</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">フックパターンの設定</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">フッキングを利用するかしないか、および瞬断判定のタイミング、オンフックの判定時間を設定します。
※ フッキングを利用しない設定にすると、フッキングの操作を必要とする機能（内線転送、マルチアンサー、キャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送、電話機からの設定など）は使用できません。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">analog hooking {pattern}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{pattern}</td><td>0　フッキングを利用する（瞬断判定 200ms）（初期値）
1　フッキングを利用する（瞬断判定 300ms）
2　フッキングを利用しない（瞬断判定 200ms）
3　フッキングを利用しない（瞬断判定 300ms）</td></tr>
</table>

コマンド名	analog inummode	
タイトル	i・ナンバー使用時のモードの設定	
説明	i・ナンバーを契約している場合、i・ナンバーを利用するときのモードを選択します。 i・ナンバーを契約している場合、「かんたんモードで利用する」を選択すると、着信時には次の項目で設定した内容がすべて無効になります。 ・[アナログ設定]→[ダイヤルイン設定]画面の[登録番号]以外の設定項目 ・[アナログ設定]→[ポート共通の設定]画面の[グローバル着信] 「カスタマイズモードで利用する(着信時にダイヤルインの設定を利用)」を選択した場合、「かんたんモードで利用する」を選択したときに無効だった設定が、すべて有効になります。i・ナンバーで 3 つの電話番号を使用するときは、このモードを選択してください。「かんたんモードで利用する」に設定した場合、3 つ目の電話番号(追加番号 2)で電話がかかってきたときは、すべてのポートに着信します。 なお、i・ナンバーを契約していないときは、「i・ナンバーを利用しない」を選択してください。	
書式	analog inummode {mode}	
パラメータ	{mode}	easy　かんたんモードで利用する(初期値) customize　カスタマイズモードで利用する(着信時にダイヤルインの設定を利用) off　利用しない

コマンド名	analog multi	
タイトル	マルチアンサーの設定	
説明	マルチアンサーは、フレックスホンのキャッチホン(コールウェイティング)を契約していなくても、キャッチホン(コールウェイティング)と同じように動作する機能です。 マルチアンサーの機能を使用するかどうかについて選択します。 ※ マルチアンサーを使用するときは、この項目のほかに、[アナログ設定]→[ダイヤルイン設定]画面の[ダイヤルイン登録番号 0～3]で、キャッチホンの設定が必要です。 ※ この機能を利用する TEL ポートには電話機をつなぎ、[アナログ設定]→[ポートごとの設定]画面の[ポート接続機器]で「電話」または「モデム／ FAX 機能付電話」を選択してください。電話以外のアナログ機器では、この機能を使用できません。 ※ 1つの TEL ポートでこの機能を使用している間は、他の TEL ポートで電話をかけたり受けたりすることはできません。 ※ 内線通話中にかかってきた電話を受けられるのは、保留されている外線がないときだけです。 ※ マルチアンサーを利用する設定のときは、フレックスホンのキャッチホン(コールウェイティング)、通信中転送、三者通話は利用できません。	
書式	analog multi {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　マルチアンサーをしない(初期値) on　マルチアンサーをする

コマンド名	analog multicall
タイトル	通話中発信の設定

説明	NTTと契約していなくても、INSネット64のフレックスホンの三者通話(切り替えモードのみ)と同じような機能を使用することができます。 通話中、通話相手を保留にして、他の相手に電話をかけることができます。 **※ この機能は、電話以外のアナログ機器では使用できません。** **※ この機能を使用する設定にすると、内線転送できなくなります。** **※ この機能を使用する設定にすると、フレックスホンサービスのキャッチホン(コールウェイティング)、三者通話、通信中転送を利用できません。**	
書式	analog multicall {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　通話中発信をしない(初期値) on　通話中発信をする

コマンド名	analog nd	
タイトル	ナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイ、ネーム・ディスプレイ機能を使用するかどうかの設定	
説明	ナンバー・ディスプレイ対応の機器を接続しているときは、[ナンバー・ディスプレイのみを使用する]、[キャチホン・ディスプレイを使用する]もしくは[ネーム・ディスプレイを使用する]を選択すると、相手先の電話番号や発信電話番号非通知理由などを確認できます。 また、キャッチホン・ディスプレイ対応の機器を接続しているときは、[キャチホン・ディスプレイを使用する]もしくは[ネーム・ディスプレイを使用する]を選択すると、通話中に別の相手からの着信があった場合、相手先の電話番号や発信電話番号非通知理由などを確認できます。 ネーム・ディスプレイ対応の機器を接続しているときは、[ネーム・ディスプレイを使用する]を選択すると、相手先の電話番号と一緒に、ネーム・ディスプレイ情報(発信者関連情報)を確認できます。この機能はキャッチホンでも動作します。 [ナンバー・ディスプレイのみを使用する]、[キャチホン・ディスプレイを使用する]または[ネーム・ディスプレイを使用する]を選択した場合は、次のことに注意してください。 **・ [ナンバー・ディスプレイのみを使用する]、[キャチホン・ディスプレイを使用する]または[ネーム・ディスプレイを使用する]を選択したアナログポートに、ナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイ、ネーム・ディスプレイに対応していない電話機(またはアダプタ)を接続しないでください。誤動作することがあります。** **・ 相手先からの呼び出しから実際に着信側の呼び出し音が鳴るまでに、若干時間がかかります。** **・ お使いの機種(電話機またはアダプタ)によっては、発信電話番号や発信電話番号非通知理由が正しく表示されないことがあります。**	
書式	analog nd {port} {mode}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{mode}	モード off　使用しない(初期値) nd　ナンバー・ディスプレイ機能のみ使用する ndcd　キャッチホン・ディスプレイ機能を使用する named　ネーム・ディスプレイ機能を使用する

コマンド名	analog pbfunc	
タイトル	機能ボタンの設定	
説明	アナログ機器の[＊]ボタンと[＃]ボタンには、ダイヤル時にサブアドレスを指定したり、ダイヤル後にすぐ発信する役割が割り当てられています。この 2 つのボタンを「機能ボタン」と呼びます。機能ボタンの役割を変えたり、役割を解除する場合はここで設定します。	
書式	analog pbfunc {port} {button} {function}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{button}	ボタン aster　"*"(アスタリスク)ボタン sharp　"#"(シャープ)ボタン
	{function}	機能 none　なし subaddr　サブアドレス setup　発信開始 (初期値:"*"=サブアドレス、"#"=発信開始)

コマンド名	analog pwrsave onhook	
タイトル	オンフック時(停電時)の TEL ポート給電の設定	
説明	停電(乾電池駆動)モード時の TEL ポート 1 の動作を設定します。乾電池を入れていると、停電時、TEL ポート 1 だけ乾電池によるバックアップ機能が働きます。	
書式	analog pwrsave onhook {port} {mode}	
パラメータ	{port}	1　ポート番号
	{mode}	モード stop　停止(初期値) normal　通常

コマンド名	analog recvvol	
タイトル	受話音量の設定	
説明	通話時に受信する音量を、5 段階から選択します。相手と通話しながら調節することも、あらかじめ調節しておくこともできます。	
書式	analog recvvol {port} {volume}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号

	{volume}	音量ボリューム lowest　ボリューム1(最小) low　ボリューム2(小) standard ボリューム3(標準)(初期値) high　ボリューム4(大) highest　ボリューム5(最大)

コマンド名	analog senddev	
タイトル	発信時のポート接続機器の設定	
説明	発信時の各ポートのアナログ機器の種類を設定します。ここでの設定により、着信時は FAX として、発信時は電話として使用するなど、発信時と着信時でそれぞれ異なった機器として動作させることができます。着信時のアナログ機器の種類は、[ポート接続機器]での設定に従います。	
書式	analog senddev {port} {device}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{device}	接続機器 phone　電話 modem　モデム／FAX 機能付電話 fax　ファクシミリ depend　着信時の設定に従う(初期値)

コマンド名	analog sendnum	
タイトル	発信者番号の設定	
説明	アナログ機器から発信する場合に、相手先に通知する発信者番号を選択します。 [発信者番号通知]で発信者番号を通知する設定にしている場合、および、相手先の電話番号の前に「186」をつけてダイヤルした場合に、ここで選択した番号が通知されます。 なお、INS ボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービス、F ネットなどの NTT サービスを利用するには、発信者番号通知が必要な場合があります。各サービスの契約内容に応じて、設定を行ってください。	
書式	analog sendnum {port} {number}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{number}	通知番号 line　契約者回線番号(i・ナンバー)(初期値) dialin1　ダイヤルイン登録番号 1 dialin2　ダイヤルイン登録番号 2 dialin3　ダイヤルイン登録番号 3 dialin0　ダイヤルイン登録番号 0

コマンド名	analog sendnumind	
タイトル	発信者番号通知の設定	
説明	発信時に、相手先に発信者番号を通知するかどうかを設定します。通知する番号は、[発信者番号]で設定します。 発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」または「通常非通知(回線ごと非通知)」で契約している場合は、NTTとの契約よりも、ここでの設定が優先されます。 また、ここでの設定に関わらず、相手先の電話番号の前に「184」をつけてダイヤルすると非通知になり、「186」をつけてダイヤルすると通知になります。 ＜メモ＞ ●i・ナンバー契約時の発信者番号の通知/非通知について i・ナンバーを契約している場合、発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」で契約して、[発信者番号][発信者番号通知]を両方とも購入時の設定にしているときは、TEL ポート 1 から契約者回線番号を、TEL ポート 2 から i・ナンバー追加番号 1 を通知します。 発信者番号通知サービスを「通常非通知(回線ごと非通知)」で契約しているとき、および[発信者番号][発信者番号通知]のどちらかを購入時以外の設定にしているときは、[発信者番号][発信者番号通知]の設定内容に従って発信者番号の通知／非通知が決まります。	
書式	analog sendnumind {port} {indication}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{indication}	番号通知 contract　NTTとの契約による(初期値) do　通常通知 dont　通常非通知

コマンド名	analog sendvol	
タイトル	送話音量の設定	
説明	通話時にこちらから送信する音量を、5 段階から選択します。相手と通話しながら調節することも、あらかじめ調節しておくこともできます。	
書式	analog sendvol {port} {volume}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{volume}	音量ボリューム lowest　ボリューム1(最小) low　ボリューム2(小) standard　ボリューム3(標準)(初期値) high　ボリューム4(大) highest　ボリューム5(最大)

コマンド名	analog setup		
タイトル	電話機からの設定機能の設定		
説明	電話機からの設定モードを選択できます。 設定モードは次の3種類あります。 ・直接設定モード　フックボタンを押さずに設定できます。 ・フッキング利用モード　フックボタンを押して設定します。 ・設定禁止モード　指定したTELポートからの設定を禁止します。 ※ 直接設定モードでは、フックボタンを押さずに設定ができますが、フックボタンを押して設定することも可能です。		
書式	analog setup {port} {mode}		
パラメータ	{port}	1～2	ポート番号
	{mode}	off	電話機からの設定機能を使わない(設定禁止モード)
		normal	電話機からの設定をフッキング利用モードで行う
		direct	電話機からの設定を直接設定モードで行う(初期値)

コマンド名	analog voice in		
タイトル	音声着信の割り込み(リソースBOD)を行うか否かの設定		
説明	アナログ機器への着信要求があるときに、1Bチャネルを割り当てるかどうかを選択します。		
書式	analog voice in {off|on}		
パラメータ	{off|on}	off	音声着信の割り込みを許可しない
		on	音声着信の割り込みを許可する(初期値)

コマンド名	analog voice out		
タイトル	音声発信の割り込み(リソースBOD)を行うか否かの設定		
説明	アナログ機器から発信するときに、1Bチャネルを割り当てるかどうかを選択します。		
書式	analog voice out {off|on}		
パラメータ	{off|on}	off	音声発信の割り込みを許可しない
		on	音声発信の割り込みを許可する(初期値)

コマンド名	analog vrdialtr
タイトル	擬似着信転送の設定
説明	擬似着信転送は、フレックスホンの着信転送を契約していなくても、着信転送と同じように動作する機能です。 擬似着信転送の機能を使用するかどうかについて選択します。 ※ 擬似着信転送を使用するときは、この項目のほかに、[アナログ設定]→[ダイヤルイン設定]画面の[ダイヤルイン登録番号 0～3]で、着信転送と転送先の回線番号の設定が必要です。

	＜注意＞ 転送する場合、本製品から転送先までの電話料金は本製品側にかかります。	
書式	analog vrdialtr {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　　擬似着信転送をしない(初期値) on　　擬似着信転送をする(音声ガイダンスなし) ※ 従来の機能である「疑似着信転送をする(音声ガイダンスあり)」には対応していません。

コマンド名	analog waittime	
タイトル	ダイヤル終了から発信までの待ち時間の設定	
説明	ISDN 回線では、最後のボタンが押されてから数秒待って発信を行います。 この待ち時間を、3～50 秒の間で設定します。	
書式	analog waittime {port} {time}	
パラメータ	{port}	1～2　ポート番号
	{time}	待ち時間(秒)[3..50](初期値:5)

3. IP 設定コマンド

コマンド名	ip address	
タイトル	LAN 側の IP アドレスの設定	
説明	本製品の IP アドレスとサブネットマスク長を入力します。購入時は、「192.168.0.1/24」と設定されています。既存の LAN に本製品を導入するときなど必要に応じて、変更してください。 **※IP アドレスは、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。**	
書式	ip address {address}[/{mask}]	
パラメータ	{address}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)(初期値:192.168.0.1)
	{mask}	IP ネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)(初期値:24)

コマンド名	ip broadcast	
タイトル	LAN 側のブロードキャストアドレスの設定	
説明	LAN 上のすべてのパソコンにパケットを送信することがあります。そのときに使う IP アドレスを「ブロードキャストアドレス」といいます。 ブロードキャストアドレスを設定します。詳しくは、ネットワークの管理者に相談してください。	
書式	ip broadcast {broadcast}	
パラメータ	{broadcast}	0 全て 0 1 全て 1(初期値) 2 サブネット+全て 0 3 サブネット+全て 1

コマンド名	ip dhcp address	
タイトル	DHCP/BOOTP で割り当てる IP アドレス・個数の設定	
説明	DHCP/BOOTP サーバ機能を使ってパソコンに設定する IP アドレスの範囲を入力します。 **※設定するときは、次の点に注意してください。** **・本製品と同じサブネットの IP アドレスを設定すること** **・本製品の IP アドレスと重複しないように設定すること**	
書式	ip dhcp address {address}/{number}	
パラメータ	{address}	開始 IP アドレス(初期値:192.168.0.2)
	{number}	割り当て IP アドレス数(初期値:32)

コマンド名	ip dhcp domain
タイトル	DHCP で割り当てるドメイン名の設定
説明	DHCP/BOOTP サーバ機能を使うとき、LAN 上で使用しているドメイン名を入力します。IP アドレスと共にドメイン名も各パソコンに設定されます。

	特に必要がない限り、ドメイン名を設定する必要はありません。 ＜メモ＞ ●WAN ポートから PPPoE を採用していないプロバイダに接続する場合 WAN ポートから PPPoE を採用していないプロバイダに接続する場合、IP アドレスを自動で割り当ててもらうときは、ドメイン名も取得できることがあります。 その場合、[ドメイン名]が空欄のときだけ、プロバイダから取得したドメイン名がパソコンに通知されます。	
書式	ip dhcp domain {domain}	
パラメータ	{domain}	ドメイン名(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	ip dhcp leasetime	
タイトル	DHCP で割り当てる IP アドレスのリース時間の設定	
説明	DHCP/BOOTP サーバ機能を使って設定される IP アドレスの有効期限(1～9999 時間)を入力します。 ここで設定した時間を経過すると、一度設定された IP アドレスが再利用できるようになります。 ＜メモ＞ ●パソコンに割り当てられた IP アドレスの更新 DHCP/BOOTP サーバ機能によってパソコンに設定された IP アドレスは、[リース時間]が経過するまで使用されます。本製品の IP アドレスを変更したときなどパソコンの IP アドレスの変更が必要な場合でも、IP アドレスは自動的に更新されません。 [リース時間]内にパソコンに新しい IP アドレスを設定する場合は、それぞれのパソコンで操作してください。	
書式	ip dhcp leasetime {time}	
パラメータ	{time}	1～9999 DHCP リース時間(時間)(初期値:24)

コマンド名	ip dhcp server	
タイトル	DHCP/BOOTP サーバ機能を使うかどうかの設定	
説明	DHCP/BOOTP サーバ機能を使うかどうか選択します。購入時は、使うように設定されています。 既存の LAN に本製品を導入するときなどで、すでに LAN 上に DHCP サーバがある場合や、IP アドレスを手動で設定する場合は、OFF にしてください。 なお、本製品の IP アドレスを変更すると自動的に OFF になります。 DHCP/BOOTP サーバ機能を使うときは必ず、[開始 IP アドレス/個数]にパソコンに設定する IP アドレスの範囲を入力してください。	
書式	ip dhcp server {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off DHCP/BOOTP サーバ機能を使わない on DHCP/BOOTP サーバ機能を使う(初期値)

コマンド名	ip dhcp winsserver	
タイトル	DHCP で割り当てる WINS サーバのアドレスの設定	
説明	DHCP サーバ機能を使用するとき、パソコンに割り当てる WINS サーバの IP アドレスを設定します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。 LAN 上の Windows XP/2000/Me/98 SE の TCP/IP の設定で「WINS の解決をしない」または「WINS の解決に DHCP を使う」にしておくと、DHCP サーバから IP アドレスを取得する際に、ここで設定する WINS サーバアドレスが自動的に設定されます。また、ここで設定する WINS サーバアドレスは、本製品にリモートアクセスした Windows XP/2000/Me/98 SE に通知されます。	
書式	ip dhcp winsserver {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリ WINS サーバアドレス(初期値:空白)
	{secondary}	セカンダリ WINS サーバアドレス(初期値:空白)

コマンド名	ip dmzhost address	
タイトル	DMZ(DeMilitarized Zone)ホストに指定する端末のアドレス設定	
説明	DMZ ホストアドレスを設定すると、WAN 側インタフェース(ISDN、PPPoE、PPTP、DHCP クライアント、IP アドレス固定)で受信したパケットのうち、LAN 側への転送先が不明なパケットを、DMZ ホストアドレスで設定した端末へ転送します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。 サーバ等を DMZ ホストに指定しておくと、WAN 側からサーバへの接続が可能になります。 また、DMZ ホスト以外の LAN 側の端末への不正なアクセスを排除できます。 DMZ ホストアドレスを設定した場合、以下の動作をします。 ・ WAN 側インタフェースで受信したパケットで、LAN 側への転送先が不明なパケットは、DMZ ホストアドレスで指定した端末へ転送します。 ・ WAN 側インタフェースで受信したパケットで、NAT の設定により転送する LAN 側の端末が特定されたパケットは、その機器へ転送します。 ・ WAN 側インタフェースで受信したパケットで、NAT の latest の設定により転送する LAN 側の端末が特定されたパケットは、その機器へ転送し、転送先不明(破棄される)のものに関しては DMZ ホストアドレスで指定した機器へ転送します。 DMZ ホストアドレスを設定しなかった場合は NAT の設定に従い、転送先を決定(転送または破棄)します。 ＜注意＞ ・ DMZ ホストアドレスを設定した場合、宛先アドレスは NAT 変換され、フィルタも通常と同様に適用されます。 ・ DMZ ホストアドレスの設定が空白、または、DMZ ホストアドレスが「0.0.0.0」の場合、DMZ ホスト機能は OFF となります。 ・ この機能は端末型接続のときのみ有効です。	
書式	ip dmzhost address {host_address}	
パラメータ	{host_address}	DMZ ホストに指定する機器のアドレス

コマンド名	ip dns relay	
タイトル	「AutoDNS」を行うかどうかの設定	
説明	AutoDNS 機能を使うかどうか選択します。購入時は、使うように設定されています。 接続先の DNS サーバを利用する場合はとくに、AutoDNS 機能を使うことをお勧めします。 ＜注意＞ AutoDNS 機能を使用する場合、LAN 上にあるパソコンの DNS サーバアドレスの設定を「本製品の IP アドレス」に設定してください。	
書式	ip dns relay {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off 「AutoDNS」を行わない on 「AutoDNS」を行う(初期値)

コマンド名	ip dns server	
タイトル	LAN 側の DNS サーバアドレスの設定	
説明	AutoDNS 機能を使用するとき、パソコンからのドメイン名解決要求を転送したい DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。 [AutoDNS 機能]を ON にしている場合は、LAN 上の DNS サーバの IP アドレスを入力します。 また、[AutoDNS 機能]を OFF、[DHCP サーバ機能]を ON にしている場合は、LAN 上または相手先の DNS サーバの IP アドレスを入力します。 設定した IP アドレスが、DNS サーバのアドレスとして各パソコンに通知されます。	
書式	ip dns server {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリ DNS サーバアドレス(初期値:空白)
	{secondary}	セカンダリ DNS サーバアドレス(初期値:空白)

コマンド名	ip dos blocktime	
タイトル	フラッディングブロックタイムの設定	
説明	フラッディング攻撃が検出され、セッションが遮断されたとき、何秒間遮断するかを設定します。	
書式	ip dos blocktime {time}	
パラメータ	{time}	60-30000 ブロックタイム(初期値:300)

コマンド名	ip dos email from	
タイトル	送信元メールアドレスの設定	
説明	DoS 攻撃が検出されたらメールで通知したい場合、送信元のメールアドレスを設定します。	
書式	ip dos email from {address}	
パラメータ	{address}	メールアドレス（半角英数字 62 桁まで）（初期値:空白）

コマンド名	ip dos email to	
タイトル	送信先メールアドレスの設定	
説明	DoS 攻撃が検出されたらメールで通知したい場合、送信先のメールアドレスを設定します。	
書式	ip dos email to {address}	
パラメータ	{address}	メールアドレス（半角英数字 62 桁まで）（初期値:空白）

コマンド名	ip dos host fragment mode	
タイトル	同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用するか否かの設定	
説明	同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用するかどうか設定します。この機能を利用すると、同一 IP アドレスからの断片化されたパケットがチェックされます。これにより、同一ホストからの Fragment Flood に対応することができます。	
書式	ip dos host fragment mode {on|off}	
パラメータ	{on|off}	on　同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用する(初期値) off　同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用しない

コマンド名	ip dos host fragment packet	
タイトル	同一ホストフラグメンテーションパケット数の設定	
説明	ここで設定した値を超えるフラグメンテーションパケットが検出されたとき、そのホストからのセッションが遮断されます。そのセッションは、フラッディングブロックタイムを経過した時点で再開されます。	
書式	ip dos host fragment packet {packet}	
パラメータ	{packet}	1-150　フラグメンテーションパケット数(初期値:30)

コマンド名	ip dos host fragment time	
タイトル	フラグメンテーション検出時間の設定	
説明	ここで設定した時間ごとに、同一 IP アドレスからのフラグメンテーションパケットがチェックされます。	
書式	ip dos host fragment time {time}	
パラメータ	{time}	10-60000 フラグメンテーション検出時間（ミリ秒）（初期値:10000）

コマンド名	ip dos host incomplete mode
タイトル	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用するか否かの設定
説明	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用するかどうか設定します。この機能を利用すると、同一 IP アドレスからのハーフオープン状態で非アクティブなセッションがチェックされます。これにより、同一ホストからの以下の攻撃に対応できます。 ・SYN Flood　・リロード攻撃 ・Connection Flood　・UDP Flood
書式	ip dos host incomplete mode {on|off}

パラメータ	{on|off}	on　同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用する(初期値) off 同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用しない

コマンド名	ip dos host incomplete session	
タイトル	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション数の設定	
説明	ここで設定した値を超えるハーフオープン状態、または非アクティブ TCP セッション、UDP セッションが検出されると、そのホストからのセッションが遮断されます。そのセッションは、フラッディングブロックタイムを経過した時点で再開されます。	
書式	ip dos host incomplete session {session}	
パラメータ	{session}	1-50 インコンプリート、非アクティブセッション数(初期値:10)

コマンド名	ip dos host incomplete time	
タイトル	インコンプリート、非アクティブセッション検出時間の設定	
説明	ここで設定した時間ごとに、同一 IP アドレスからのインコンプリート、非アクティブセッションがチェックされます。	
書式	ip dos host incomplete time {time}	
パラメータ	{time}	50-5000 インコンプリート、非アクティブセッション検出時間 (ミリ秒) (初期値:300)

コマンド名	ip dos icmpflood mode	
タイトル	ICMP フラッディング保護機能を利用するか否かの設定	
説明	ICMP フラッディング保護機能を利用するかどうか設定します。 この機能により、防御できるのは、Ping Flood です。	
書式	ip dos icmpflood mode {on|off}	
パラメータ	{on|off}	on　ICMP フラッディング保護機能を利用する(初期値) off ICMP フラッディング保護機能を利用しない

コマンド名	ip dos icmpflood echo	
タイトル	ICMP echo 要求数の設定	
説明	ICMP echo request パケット数がここで設定した値を超えると、フラッディングブロックタイムが経過するまで、その IP アドレスからの ICMP echo request パケットが破棄されます。	
書式	ip dos icmpflood echo {number}	
パラメータ	{number}	10-50　ICMP echo request パケット数 (初期値:30)

コマンド名	ip dos inactive session high
タイトル	上限非アクティブセッション数の設定
説明	本製品では、常に TCP/UDP 非アクティブセッション保護機能が ON に設定されています。非アクティブ

	セッション数が、ここで設定した値を超えると、そのセッションは遮断されます。	
書式	ip dos inactive session high {session}	
パラメータ	{session}	1-250 非アクティブセッション数の上限(初期値:250)

コマンド名	ip dos inactive session low	
タイトル	下限非アクティブセッション数の設定	
説明	本製品では、常に TCP/UDP 非アクティブセッション保護機能が ON に設定されています。この機能によりセッションが遮断された場合、ここで設定した値まで非アクティブセッション数が減少したら、そのセッションを再開します。	
書式	ip dos inactive session low {session}	
パラメータ	{session}	1-200 非アクティブセッション数の下限(初期値:200)

コマンド名	ip dos incomplete mode	
タイトル	TCP インコンプリートセッション保護機能を利用するか否かの設定	
説明	TCP インコンプリートセッション保護機能を利用するかどうか設定します。 この機能により、防御できるのは、SYN Flood です。	
書式	ip dos incomplete mode {on|off}	
パラメータ	{on|off}	on TCP インコンプリートセッション保護機能を利用する(初期値) off TCP インコンプリートセッション保護機能を利用しない

コマンド名	ip dos incomplete session high	
タイトル	上限インコンプリートセッション数の設定	
説明	ハーフオープン状態のセッション数がここで設定した値を超えると、ポート番号に関わらず、そのセッションが遮断されます。	
書式	ip dos incomplete session high {session}	
パラメータ	{session}	1-300 セッション数の上限 (初期値:300)

コマンド名	ip dos incomplete session low	
タイトル	下限非コンプリートセッション数の設定	
説明	TCP インコンプリートセッション保護機能によってセッションが遮断された場合、ここで設定した値までハーフオープン状態のセッション数が減少したら、そのセッションを再開します。	
書式	ip dos incomplete session low {session}	
パラメータ	{session}	1-250 非アクティブセッション数の下限(初期値:250)

コマンド名	ip dos log
タイトル	DoS 攻撃防御に関するログを出力するか否かの設定

説明	DoS 攻撃防御機能のログを SYSLOG サーバに出力することができます。 ※ SYSLOG サーバは別途ご用意ください。	
書式	ip dos log {on|off}	
パラメータ	{on|off}	on　出力する(初期値) off　出力しない

コマンド名	ip dos mode	
タイトル	DoS 攻撃防御を利用するか否かの設定	
説明	DoS 攻撃防御機能を利用するかどうか設定できます。この機能を利用すると、以下の DoS 攻撃を防御できます。 ・FIN Scan　・Null Scan ・Xmas Scan(Nmap Xmas Scan)　・Smurf 攻撃 ・Ping of Death 攻撃　・Teardrop 攻撃 ・IP Spoofing 攻撃　・Land 攻撃 ・IP with Zero Length 攻撃　・Fraggle(UDP loop) ・Snork 攻撃　・リロード攻撃 ・Fragment Flood　・Connection Flood ・Ping Flooding　・SYN Flood	
書式	ip dos mode {on|off}	
パラメータ	{on|off}	on　DoS 攻撃防御を利用する off　DoS 攻撃防御を利用しない(初期値)

コマンド名	ip dos smtpserver	
タイトル	SMTP サーバアドレスの設定	
説明	DoS 攻撃が検出されたらメールで通知したい場合、SMTP サーバのアドレスまたはドメイン名を設定します。	
書式	ip dos smtpserver {address}	
パラメータ	{address}	SMTP サーバのアドレス、またはドメイン名(半角英数字 62 桁まで) (初期値:空白)

コマンド名	ip drctbcast	
タイトル	Directed-Broadcast を転送するか否かの設定	
説明	Directed-Broadcast を転送するかどうかを設定します。	
書式	ip drctbcast {mode}	
パラメータ	{mode}	forward　転送する discard　破棄する(初期値)

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td>ip filter</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td>IP フィルタの登録(IP フィルタの場合)</td></tr>
<tr><td>説明</td><td>フィルタを登録します。最大 64 個のフィルタを登録できます。

フィルタを登録すると、本製品が受信したパケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないパケットは通過します。

また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのアクセスが許可されます。

IP フィルタを登録する書式は、LAN 側の場合、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合で異なります。

＜注意＞
ポートの概念がないプロトコル(TCP や UDP 以外のプロトコル)の場合、送信元ポート番号および送信先ポート番号を設定しても、フィルタの一致・不一致の比較対象になりません。

例) ip filter 1 reject in 172.16.10.1 192.168.10.1 gre * 1000 remote 0

上記のフィルタを設定した場合、172.16.10.1 から 192.168.10.1 へ送信される GRE パケットは破棄されます。(「* 1000」はフィルタの一致・不一致の比較対象になりません。)したがって、すべてのプロトコルを対象とするフィルタを設定した場合、プロトコルによってフィルタリングの内容が異なります。

例) ip filter 1 reject in 172.16.10.1 192.168.10.1 * * 1000 remote 0
上記のフィルタを設定した場合、送信されるプロトコルによって、次のようになります。
・ 172.16.10.1 から 192.168.10.1 へ TCP や UDP のパケットを送信した場合
→送信先ポートが 1000 番で一致した場合のみ、このフィルタが適用され、パケットが破棄されます。
・ 172.16.10.1 から 192.168.10.1 へ GRE や ICMP のパケットを送信した場合
→このフィルタが適用され、すべてのパケットが破棄されます(これらのプロトコルにはポートの概念がないため、「* 1000」は比較しない)。

＜メモ＞
●プロトコル「TCP」「TCPEST」の違いについて
「IP フィルタの登録」では、{protocol} (プロトコル)に「TCP」「TCPEST」を設定することができます。「TCP」を設定すると、TCP のセッションによるすべて TCP パケットが対象になります。「TCPEST」を設定すると、TCP のセッションを張る際の最初の TCP パケットだけが対象になります。次の例を参考にしてください。
・TCP の場合
ip filter 1 reject in * * tcp * * remote 0
→相手先からの TCP パケットをすべて破棄します。TCP によるすべての通信が不可能になります。
・TCPEST の場合
ip filter 1 reject in * * tcpest * * remote 0
→相手先からは、TCP を使用するすべての通信サービスを利用できません。
ただし、こちら側からは、TCP を使用するすべての通信サービスを利用できます。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td>ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr}[/{srcmask}] {dstaddr}[/{dstmask}] {protocol} {srcport} {dstport} {interface} [{rnumber} nolog]</td></tr>
</table>

	ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr}[-{endsrcaddr}] {dstaddr}[-{enddstaddr}] {protocol} {srcport} {dstport} {interface} [{rnumber} nolog]	
パラメータ	{fnumber}	1～64　フィルタ番号
	{type}	フィルタタイプ pass　　一致すれば通す reject　一致すれば破棄する restrict 回線が接続されている場合だけ通す
	{dir}	方向 in 受信時にフィルタリングする out 送信時にフィルタリングする
	{srcaddr}	送信元アドレス("*"は全て)
	{srcmask}	ネットマスクまたはマスクビット数
	{endsrcaddr}	範囲指定
	{dstaddr}	送信先アドレス("*"は全て)
	{dstmask}	ネットマスクまたはマスクビット数
	{enddstaddr}	範囲指定
	{protocol}	プロトコル番号、またはニーモニック ニーモニック: "udp", "tcp", "tcpest", "tcpfin", "icmp", "gre", "ipencap","esp" ("*"は全て、"tcpest"はSYN、"tcpfin"はFIN/RSTパケットを対象)
	{srcport}	送信元ポート番号、またはニーモニック("*"は全て、範囲指定は"-"で区切って入力) ニーモニック:"ftp", "ftpdata", "telnet", "smtp", "www", "pop3", "sunrpc", "nntp", "ntp", "login", "pptp", "domain", "route", "who"
	{dstport}	送信先ポート番号、またはニーモニック("*"は全て、範囲指定は"-"で区切って入力)
	{interface}	local　　LAN側のフィルタ remote　　WAN側(接続相手先-ISDN, PPTP, PPPoE)のフィルタ wanether WAN側(WANポート)のフィルタ wanany　　WAN側全て
	{rnumber}	1～15　　相手先番号({interface}が"remote"の場合は必ず必要、"*"は全ての相手先)
	nolog	ログを出力しない

設定例	1) 相手先#1と接続している場合、IPアドレス「192.168.10.10」の機器に対する、ftp によるアクセスを禁止するとき(フィルタ番号 1 に登録) → ip filter 1 reject in * 192.168.10.10 tcp * ftp remote 1 2) 相手先#2 に端末型ダイヤルアップ接続している場合、アクセスできるパソコンを「192.168.10.10」～「192.168.10.19」に限定するとき(フィルタ番号 2、3 に登録) → ip filter 2 pass out 192.168.10.10-192.168.10.19 * * * * remote 2 → ip filter 3 reject out * * * * * remote 2 3) TCP/SMTP パケットを LAN 側から WAN 側(ISDN)に送信する際、このフィルタを通過したパケットのログを SYSLOG サーバに出力しないときとき(フィルタ番号 4 に登録) → ip filter 4 pass out * * tcp * smtp remote * nolog

コマンド名	ip filter
タイトル	IP フィルタの登録(拡張:DNS フィルタの場合)
説明	DNS Query パケットに関する IP フィルタを登録します。通常の IP フィルタとあわせて最大 64 個のフィルタを登録できます。 フィルタを登録すると、本製品が受信した DNS Query パケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、DNS Query パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがない DNS Query パケットは通過します(転送されます)。また、フィルタが登録されていない場合は、すべての DNS Query パケットが通過します(転送されます)。 **＜注意＞** **クエリタイプ番号「1」または「12」を破棄する設定にすると、本製品は簡易 DNS サーバになりません。** ＜メモ＞ ●代表的なクエリタイプ番号

番号	コード	内容
1	A	ホスト アドレス
2	NS	そのドメインのオーソリティネームサーバ
3	MD	そのドメインのメールエージェントを持つホストを示す
4	MF	そのドメインのためにメールを送信できるホストを示す
5	CNAME	エイリアスの標準名
6	SOA	オーソリティゾーンの起点
7	MB	指定されたメールボックスを持つホストを示す
8	MG	そのメールグループに属するメールボックスを示す
9	MR	改名メールボックスのドメイン名
10	NULL	その他の情報
11	WKS	ウェルノウンサービス記述
12	PTR	ドメイン名スペースの他の部分へのポインタ
13	HINFO	そのホストが使う CPU とオペレーティングシステムのタイプ
14	MINFO	メーリングリストを担当するメールボックス

	15	MX	そのドメインのメール交換局
	16	TXT	単なるテキスト文字列
書式	ip filter {fnumber} {type} dns qtype {number} [nolog]		
パラメータ	{fnumber}	1～64 フィルタ番号	
	{type}	フィルタタイプ pass　　一致すれば通す reject　一致すれば破棄する	
	{number}	クエリタイプ番号	
	nolog	ログを出力しない	

コマンド名	ip host	
タイトル	ホストデータベースの登録	
説明	パソコンのホスト名とIPアドレス、Ethernet(MAC)アドレスの組み合わせを登録します。 ここで登録した内容は、次の場合に使用されます。 ・本製品を簡易DNS サーバにする場合 ・本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能で割り当てるIPアドレスとパソコンの組み合わせを固定する場合	
書式	ip host {ipaddress} {name} [{alias} {macaddrss}]	
パラメータ	{ipaddress}	IPアドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)
	{name}	ホスト名
	{alias}	ホスト名(エイリアス)
	{macaddrss}	Ethernet(MAC)アドレス(XX:XX:XX:XX:XX:XX、XXは16進数)

コマンド名	ip mtu	
タイトル	LAN側MTU値設定	
説明	LANポートのMTUの値を設定します。	
書式	ip mtu {mtu_value}	
パラメータ	{mtu_value}	540～1500 MTU値 (初期値:0) **※0の場合、内部的に標準値の1500が使用されます**

コマンド名	ip nat
タイトル	アドレス変換(NAT)テーブルの設定
説明	IPアドレス変換(NAT)テーブルを登録します。最大32 個のNAT テーブルを登録できます。 NAT テーブルを登録すると、本製品が受信したパケットのIPアドレス/ポート番号ごとにNATテーブルと比較します。比較は、NAT テーブル番号の小さな順に行われ、該当する NAT テーブルに従って IP アドレス/ポート番号が変換されます。 NATテーブルを1個でも登録すると、該当するNATテーブルがないIPアドレス/ポート番号は通信でき

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">なくなります。
IP アドレス変換(NAT)テーブルを登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)と WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)両方の場合で異なります。
＜注意＞
WAN 側から受信したパケットが latest オプションの設定をしている NAT テーブルに該当した場合、設定された複数のプライベート IP アドレスのうち、最後に通信を行ったプライベート IP アドレスに転送されます。設定されているプロトコルおよびポート番号のすべてに外部からのアクセスが可能になりますので、latest オプションを使用するのは、どうしても必要な場合だけにしてください。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">ip nat {nnumber private[-range][/protocol/p_port[-range]] global[/g_port] [interface] [rnumber] [latest]}</td></tr>
<tr><td rowspan="5">パラメータ</td><td>{nnumber}</td><td>1～32 NAT テーブル番号</td></tr>
<tr><td>{private}</td><td>プライベート IP アドレス
※ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。
※プライベート IP アドレスの範囲を指定する場合は、開始と終了のプライベート IP アドレスを｢-｣で区切ってください。
※”*”を設定すると、すべての IP アドレスが対象になります。</td></tr>
<tr><td>{range}</td><td>プライベート IP アドレスの範囲を指定する場合の終了のプライベート IP アドレス</td></tr>
<tr><td>{protocol}</td><td>プロトコル
プロトコル:"udp","tcp","gre","icmp","ipencap","esp"
※”*”を設定すると、すべてのプロトコルが対象になります。
※{port}と合わせて、省略できます。省略した場合は、すべてのプロトコルが対象になります。</td></tr>
<tr><td>{p_port}</td><td>プライベートポート番号またはニーモニック
ニーモニック:"ftp","ftpdata","telnet","smtp","www","pop3","sunrpc","nntp","ntp","login","domain","pptp","route","who"
※プライベートポート番号またはニーモニックの範囲を指定する場合は、開始と終了のポート番号またはニーモニックを｢-｣で区切ってください。
※”*”を設定すると、すべてのプライベートポート番号またはニーモニックが対象になります。</td></tr>
</table>

	{global}	グローバル IP アドレス ※ ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。 ※ WAN ポートから通信する場合、IP アドレスを手入力で設定したときは、同じ IP アドレスを入力します。 ※ "ipcp"を設定すると、端末型ダイヤルアップ時(PPPoEを採用しているプロバイダに接続するときも含む)に割り当てられる IP アドレスになります。 ※ "dhcp"を設定すると、WAN ポートをからの IP 通信時に使用する IP アドレスになります。 ※ "dynamic"を設定すると、端末型ダイヤルアップ時(PPPoE を採用しているプロバイダに接続するときも含む)に割り当てられる IP アドレス、あるいは、WAN ポートからの IP 通信時に使用する IP アドレスになります。 ※ "*"(すべて)を設定することはできません。 ※ "ipcp","dhcp","dynamic"を設定すると、その設定内容に関わらず、[設定内容一覧]では次のように表示されます。 WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合:"ipcp" WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合:"dhcp" WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)と WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)両方の場合:"dynamic"
	{g_port}	グローバルポート番号またはニーモニック ニーモニック:"ftp","ftpdata","telnet","smtp","www","pop3","sunrpc","nntp","ntp","login","domain","pptp","route","who" ※ グローバルポート番号またはニーモニックの範囲を指定する場合は、開始と終了のポート番号またはニーモニックを「-」で区切ってください。 ※ "*"を設定すると、すべてのグローバルポート番号またはニーモニックが対象になります。
	{interface}	インタフェース remote　ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド wanether　PPPoE を使用しないブロードバンド 省略時または"*"　全て
	{rnumber}	0～15　相手先番号 ※ WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、「*」を設定すると、すべての相手先が対象になります。また、省略した場合も、すべての相手先が対象になります。 ※「0～15、*」のいずれかを設定すると、その設定した相手先が対象になります。
	latest	latest オプションの使用 ※ プライベート IP アドレスで、すべての IP アドレスが指定されているか、IP アドレスの範囲が指定されている場合に有効です。 ※ latest オプションは、設定された複数のプライベート IP アドレスのうち、最後に通信したプライベート IP アドレスに変換します。設定されているプロトコルおよびポート番号のすべてに WAN 側からのアクセスが可能になります。

設定例	1）相手先#1 に LAN 型ダイヤルアップ接続している場合、グローバル IP アドレス「133.232.200.90」を使用してアクセスできるパソコンを「192.168.0.2」に限定するとき（NAT テーブル番号 1 に登録） → ip nat 1 192.168.0.2/*/* 133.232.200.90 remote 1 2） 相手先#2 に端末型ダイヤルアップ接続している場合、外部にアクセスできるパソコンを「192.168.10.10」～「192.168.10.19」に限定するとき（NAT テーブル番号 2 に登録） → ip nat 2 192.168.10.10-192.168.10.19 ipcp remote 2 3）CATV インターネットや ADSL の PPPoE を採用していないプロバイダに接続してインターネットにアクセスする場合、通信時に割り当てられるグローバル IP アドレスを使って、「192.168.10.10」～「192.168.10.19」のパソコンがアクセスするとき（NAT テーブル番号 3 に登録） → ip nat 3 192.168.10.10-192.168.10.19 dhcp wanether

コマンド名	ip natbcast	
タイトル	NAT 使用時に Broadcast パケットを転送するか否かの設定	
説明	NAT 使用時に WAN 側から受信したブロードキャストパケットを LAN 側へ転送するかどうかを設定します。 転送するときは、ブロードキャストパケットの送信先の IP アドレスが、LAN 側のブロードキャストアドレス（「ブロードキャストアドレスの設定」参照）に変換されます。 ＜注意＞ NAT 使用時にブロードキャストパケットを転送する設定にすると、NAT テーブルの内容にかかわらず、すべてのブロードキャストパケットが転送されます。	
書式	ip natbcast {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　NAT 使用時に Broadcast パケットを転送しない（初期値） on　NAT 使用時に Broadcast パケットを転送する

コマンド名	ip ras accept	
タイトル	相手先からのリモートアクセスを受け付けるかどうかの設定	
説明	リモートアクセスサーバ機能を使うかどうかを選択します。 リモートアクセスサーバ機能を使うときは必ず、[相手先へ割り当てる IP アドレスの設定]にリモートアクセスするパソコンに割り当てる IP アドレスを設定してください。また、[接続/ 相手先登録]画面で、リモートアクセスを許可する相手先を登録してください。	
書式	ip ras accept {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off 相手先からのリモートアクセスを受け付けない（初期値） on 相手先からのリモートアクセスを受け付ける

コマンド名	ip ras address
タイトル	相手先へ割り当てる IP アドレスの設定
説明	リモートアクセスサーバ機能を使うときに、リモートアクセスするパソコンに割り当てる IP アドレスを入力します。IP アドレスは、4 個 （2 個は INS ネット 64 を使用した着信用、残りの 2 個は PPTP を使用した着信用） まで設定できます。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。

	※次のことに注意してください。 ・本製品と同じサブネットの IP アドレスを設定すること ・本製品を含むほかの機器に割り当てる IP アドレスと重複しないように設定すること	
書式	ip ras address {address0} [{address1} {address2} {address3}]	
パラメータ	{address0}	相手先に割り当てる IP アドレス(初期値:空白)
	{address1}	相手先に割り当てる IP アドレス
	{address2}	相手先に割り当てる IP アドレス
	{address3}	相手先に割り当てる IP アドレス

コマンド名	ip rip	
タイトル	RIP 送受信モードの設定	
説明	RIP(Routing Information Protocol)のモードを設定します。 RIP を送信する場合は、約 30 秒ごとに RIP パケットが LAN 上のすべてのパソコンに送信されます。	
書式	ip rip {mode}	
パラメータ	{mode}	both 送信と受信を行う(初期値) off 送信も受信も行わない recv 受信のみ行う send 送信のみ行う

コマンド名	ip route	
タイトル	IP 経路情報の登録(LAN 側の経路の場合)	
説明	IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は、ソース経路情報とあわせて 32 個まで登録できます。登録した経路がすでに IP 経路情報に存在する場合は追加されません。 IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合、LAN 側の場合、PPTP の場合で異なります。	
書式	ip route {net}/{mask}/{hops} local {gateway}	
パラメータ	{net}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)
	{mask}	IP ネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1～15 ホップカウント
	{gateway}	ゲートウェイの IP アドレス
設定例	IP アドレス「192.168.0.100」のルータを経由するデフォルトルート(ホップカウント「7」)を登録するとき → ip route 0.0.0.0/0/7 local 192.168.0.100	

コマンド名	ip route
タイトル	IP 経路情報の登録(WAN(ISDN、専用線、PPPoE を使用した Ethernet)側の経路の場合)
説明	IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は、ソース経路情報とあわせて 32 個まで登録できます。登録した経路がすでに IP 経路情報に存在する場合は追加されません。

	IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合、LAN 側の場合、PPTP の場合で異なります。	
書式	ip route {net}/{mask}/{hops} remote {rnumber}[,{rnumber2}] {type}	
パラメータ	{net}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)
	{mask}	IP ネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1～15 ホップカウント
	{rnumber}	0～15 相手先番号
	{rnumber2}	0～15 予備相手先番号
	{type}	経路情報種別 auto 自動ダイヤルアップルート static スタティックルート
設定例	相手先#1 のネットワーク番号「172.16.0.0/16」をスタティックルート(ホップカウント「2」)として登録するとき → ip route 172.16.0.0/16/2 remote 1 static	

コマンド名	ip route	
タイトル	IP 経路情報の登録(PPTP の経路の場合)	
説明	IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は、ソース経路情報とあわせて 32 個まで登録できます。登録した経路がすでに IP 経路情報に存在する場合は追加されません。 IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合、LAN 側の場合、PPTP の場合で異なります。	
書式	ip route {net}/{mask}[/{hops}] pptp {server}	
パラメータ	{net}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)
	{mask}	IP ネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1～15 ホップカウント
	{server}	PPTP サーバアドレス
設定例	サブネットワーク番号「192.168.6.0/24」(ホップカウント「2」)に宛てたパケットを「192.168.1.204」の PPTP サーバへ送信するとき → ip route 192.168.6.0/24/2 pptp 192.168.1.204	

コマンド名	ip route
タイトル	IP 経路情報の登録(WAN(PPPoE を使用しない Ethernet)側の経路の場合)
説明	IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は、ソース経路情報とあわせて 32 個まで登録できます。登録した経路がすでに IP 経路情報に存在する場合は追加されません。 IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合、LAN 側の場合、PPTP の場合で異なります。
書式	ip route {net}/{mask}[/{hops}] wanether

パラメータ	{net}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)
	{mask}	IP ネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1〜15 ホップカウント

コマンド名	ip spi mode	
タイトル	SPI(Stateful Packet Inspection)を利用するか否かの設定	
説明	SPI を使用するかどうかを設定します。 SPI を使用する場合、以下の動作をします。 ・ LAN 側からの TCP 接続において、TCP の SYN パケットを送信後 FIN パケットが送信されるまでの間のみ、WAN 側からの適切なデータパケット(IP アドレス、および、ポート番号が SYN パケットに対応しているパケット)を通過させます。 ・ FTP 接続の場合、FTP のセッションが確立中のみ WAN 側からのデータパケット(ftpdata)を通過させます。 ・ ICMP パケットの場合、Request が送信された後の最初の Reply のみ通過させます。 ・ DNS パケットの場合、DNS Echo と DNS Time に関して、Reqest が送信された後の最初の Reply のみ通過させます。 SPI 機能を使用しない場合、通常のフィルタや NAT の設定に従って処理されます。	
書式	ip spi mode {on | off}	
パラメータ	{on | off}	on SPI を利用する(初期値) off SPI を利用しない

コマンド名	ip spi log	
タイトル	SPI で破棄されたパケットのログ出力設定	
説明	SPI を使用する設定の場合、SPI で破棄されたパケットのログを syslog に出力するかどうかを設定します。 ログを出力する場合は、NOTICE タイプの SYSLOG を出力する設定にしてください。	
書式	ip spi log {on | off}	
パラメータ	{on | off}	on ログを出力する(初期値) off ログを出力しない

コマンド名	ip srcroute
タイトル	IP ソース経路情報の登録(WAN(ISDN、専用線、PPPoE を使用した Ethernet)側の経路の場合)
説明	ソース経路情報を設定することによって、占有して通信する相手先をパソコンごとに特定できます。 ソース経路情報を設定すると、本製品は LAN 上のパソコンから受信したパケットを、まずソース経路情報と比較します。パケットは、該当したソース経路情報の条件に従って処理されます。該当するソース経路情報がない場合は、IP 経路情報の条件に従って処理されます。 ソース経路情報に登録されている相手先には、同じソース経路情報に登録されているパソコンだけが通信できます。したがって、回線が接続されていても、そのソース経路情報の条件を満たさないパソコンはその相手先と通信できません。

	なお、ソース経路情報は、IP 経路情報とあわせて 32 個まで登録できます。 ソース経路情報を登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合で異なります。	
書式	ip srcroute {address} [/{mask}] remote {rnumber} [,{rnumber2}] {type} ip srcroute {address} [-{range}] remote {rnumber} [,{rnumber2}] {type}	
パラメータ	{address}	送信元のパソコンの IP アドレス ※ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。 ※送信元アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信元アドレスを「-」で区切ってください。
	{mask}	サブネットマスクまたはマスクビット数 ※サブネットマスクの場合は、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。
	{range}	送信元アドレスを範囲指定する場合の終了の送信元アドレス ※ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。
	{rnumber}	0～15　相手先番号
	{rnumber2}	0～15　予備相手先番号 ※ {rnumber2}を設定すると、{rnumber}の相手先の B チャネルが空いていないなどで接続できないときは、自動的に{rnumber2}に接続します。
	{type}	経路情報種別 auto　　自動ダイヤルアップルート static　スタティックルート

コマンド名	ip srcroute
タイトル	IP ソース経路情報の登録(WAN 側(PPPoE を使用しない Ethernet)の経路の場合)
説明	ソース経路情報を設定することによって、占有して通信する相手先をパソコンごとに特定できます。 ソース経路情報を設定すると、本製品は LAN 上のパソコンから受信したパケットを、まずソース経路情報と比較します。パケットは、該当したソース経路情報の条件に従って処理されます。該当するソース経路情報がない場合は、IP 経路情報の条件に従って処理されます。 ソース経路情報に登録されている相手先には、同じソース経路情報に登録されているパソコンだけが通信できます。したがって、回線が接続されていても、そのソース経路情報の条件を満たさないパソコンはその相手先と通信できません。 なお、ソース経路情報は、IP 経路情報とあわせて 32 個まで登録できます。 ソース経路情報を登録する書式は、WAN 側(ISDN、専用線、PPPoE を使用するブロードバンド)の場合、WAN 側(PPPoE を使用しないブロードバンド)の場合で異なります。
書式	ip srcroute {address}[/{mask}] wanether ip srcroute {address}[-{range}] wanether

パラメータ	{address}	送信元のパソコンの IP アドレス ※ ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。 ※ 送信元アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信元アドレスを「-」で区切ってください。
	{mask}	サブネットマスクまたはマスクビット数 ※ サブネットマスクの場合は、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。
	{range}	送信元アドレスを範囲指定する場合の終了の送信元アドレス ※ ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。

コマンド名	ip stealth mode	
タイトル	ステルスモードを利用するか否かの設定	
説明	ステルスモードを使用するかどうかを設定します。 ステルスモードを使用する場合、以下の動作をします。 ・ 端末型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した Ping(ICMP Echo Request パケット)、UDP パケットのうち、LAN 側の転送先が不明なものに関しては、応答(ICMP Echo Reply、ICMP エラーなど)を返しません。 ・ 端末型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した TCP パケットのうち、LAN 側の転送先が不明なものに関しては、AUTH ポート(113)宛てのものに対してのみ RST を返し、その他の場合応答を返しません。 ・ LAN 型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した Ping(ICMP Echo Request パケット)、UDP パケットのうち、送信先が本製品の IP アドレスの場合は応答(ICMP Echo Reply、ICMP エラーなど)を返しません。 ・ LAN 型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した TCP パケットのうち、送信先が本製品の IP アドレスの場合は AUTH ポート(113)宛てのパケットに対してのみ RST を返し、その他の場合は応答を返しません。 ステルスモードを使用しない場合、以下の動作をします。 ・ WAN 側インタフェースで受信した Ping や UDP パケット、TCP パケットは通常のフィルタや NAT の設定に従って処理されます。 ・ WAN 側インタフェースで受信したパケットのうち、端末型接続で LAN 側への転送先が不明な TCP パケット、および、LAN 型接続で送信先が本製品の IP アドレスの TCP パケットは、宛先ポートにかかわらず RST を返します。	
書式	ip stealth mode {on | off}	
パラメータ	{on | off}	on　ステルスモード利用（初期値） off　ステルスモードを利用しない

コマンド名	ip stealth log
タイトル	ステルスモードで破棄されたパケットのログ出力設定
説明	ステルスモードを使用する設定の場合、ステルスモードで破棄されたパケットのログを syslog に出力するかどうかを設定します。

	ログを出力する場合は、NOTICEタイプのSYSLOGを出力する設定にしてください。	
書式	ip stealth log {on	off}	
パラメータ	{on	off}	on　　ログを出力する(初期値) off　　ログを出力しない

コマンド名	ip syslog debug	
タイトル	DEBUGタイプのSYSLOGを出力するかどうかの設定	
説明	ISDNやPPP など各種デバッグ情報を出力します。	
書式	ip syslog debug {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　　DEBUGタイプのSYSLOGを出力しない(初期値) on　　DEBUGタイプのSYSLOGを出力する

コマンド名	ip syslog facility	
タイトル	SYSLOGファシリティの設定	
説明	使用するSYSLOG サーバ機能のファシリティ(0 ～ 23)を入力します。 通常は「1」(user)を設定します。	
書式	ip syslog facility {facility}	
パラメータ	{facility}	0～23　SYSLOGファシリティ(初期値:1)

コマンド名	ip syslog host	
タイトル	SYSLOGを受けるホストの IPアドレスの設定	
説明	SYSLOG サーバ機能に対応しているパソコンの IPアドレスを設定します。 設定したパソコンに、接続／切断ログ情報やデバッグ情報、フィルタリング情報を転送して、ファイルとして一括管理できます。 ※IPアドレスは、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。	
書式	ip syslog host {address}	
パラメータ	{address}	SYSLOGを送るホストアドレス(初期値:空白)

コマンド名	ip syslog info	
タイトル	INFOタイプのSYSLOGを出力するかどうかの設定	
説明	接続／切断ログ情報を出力します。	
書式	ip syslog info {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　　INFOタイプのSYSLOGを出力しない(初期値) on　　INFOタイプのSYSLOGを出力する

コマンド名	ip syslog notice		
タイトル	NOTICE タイプの SYSLOG を出力するかどうかの設定		
説明	パケットフィルタリングで処理されたすべてのパケットの内容を出力します。 「IP フィルタの登録」コマンドで nolog オプションが指定されていないフィルタに対するログを出力します。		
書式	ip syslog notice {off|on}		
パラメータ	{off|on}	off	NOTICE タイプの SYSLOG を出力しない(初期値)
		on	NOTICE タイプの SYSLOG を出力する

コマンド名	ip vpnpt ipsec mode		
タイトル	IPsec を透過するか否かの設定		
説明	端末型接続で NAT を使用して通信を行う場合、IPsec を透過するかどうかの設定を行います。 このコマンドを使用すると NAT の知識がなくても簡単にパススルーの設定を行うことができます。 透過する設定にした場合、下記のコマンドが追加された場合と同等の動作をします。 ip nat N xxx.xxx.xxx.xxx/udp/500 dynamic ip nat N xxx.xxx.xxx.xxx/esp dynamic ※xxx.xxx.xxx.xxx は[ip vpnpt ipsec host]で設定した IP アドレス ※上記のコマンドは内部的なもので設定には表示されません。 ＜注意＞ LAN 型接続の場合、この設定は無効になります。		
書式	ip vpnpt ipsec mode {off | on}		
パラメータ	{off | on}	off	IPsec を透過しない(初期値)
		on	IPsec を透過する

コマンド名	ip vpnpt ipsec host	
タイトル	IPsec パススルーを利用するホストの IP アドレス設定	
説明	IPsec パススルーを利用するホストの IP アドレスを設定します。 ＜注意＞ ・LAN 側ホストの IP アドレスに"*"を設定した場合、LAN 側の複数ホストが IPsec を利用することができますが、通常の NAT の動作と同様に、WAN 側から接続を開始することはできません。 ・LAN 側ホストの IP アドレスに"*"を設定した場合、同一相手先への複数セッション同時使用はできません。 ・LAN 側ホストに IP アドレスを指定した場合、指定したホスト以外は IPsec の通信を行うことはできません。	
書式	ip vpnpt ipsec host {address}	
パラメータ	{address}	IPsec パススルーを利用するホストの IP アドレスまたは "*"(初期値:空白) ※空白の場合は"*"が設定された場合と同じ動作をします。

コマンド名	ip vpnpt pptp mode	
タイトル	PPTPを透過するか否かの設定	
説明	端末型接続でNATを使用して通信を行う場合、PPTPを透過するかどうかの設定を行います。 このコマンドを使用するとNATの知識がなくても簡単にパススルーの設定を行うことができます。 透過する設定にした場合、下記のコマンドが追加された場合と同等の動作をします。 ip nat N yyy.yyy.yyy.yyy /tcp/1723 dynamic ip nat N yyy.yyy.yyy.yyy /gre dynamic ※yyy.yyy.yyy.yyy は[ip vpnpt pppt host]で設定した IP アドレス ※上記のコマンドは内部的なもので設定には表示されません。 ＜注意＞ LAN 型接続の場合、この設定は無効になります。	
書式	ip vpnpt pptp mode {off ｜ on}	
パラメータ	{off ｜ on}	off　PPTPを透過しない(初期値) on　PPTPを透過する

コマンド名	ip vpnpt pptp host	
タイトル	PPTP パススルーを利用するホストの IP アドレス設定	
説明	PPTP パススルーを利用するホストの IP アドレスを設定します。 ＜注意＞ ・LAN 側ホストの IP アドレスに"*"を設定した場合、LAN 側の複数ホストが PPTP を利用することができますが、通常の NAT の動作と同様に、WAN 側から接続を開始することはできません。 ・LAN 側ホストの IP アドレスに"*"を設定した場合、同一相手先への複数セッション同時使用はできません。 ・LAN 側ホストに IP アドレスを指定した場合、指定したホスト以外は PPTP の通信を行うことはできません。	
書式	ip vpnpt pptp host {address}	
パラメータ	{address}	PPTP パススルーを利用するホストの IP アドレスまたは "*"(初期値:空白) ※空白の場合は"*"が設定された場合と同じ動作をします。

コマンド名	ip vpnpt l2tp mode
タイトル	L2TPを透過するか否かの設定
説明	端末型接続でNATを使用して通信を行う場合、L2TPを透過するかどうかの設定を行います。 このコマンドを使用するとNATの知識がなくても簡単にパススルーの設定を行うことができます。 透過する設定にした場合、下記のコマンドが追加された場合と同等の動作をします。 ip nat N zzz.zzz.zzz.zzz /udp/1701 dynamic ※zzz.zzz.zzz.zzz は[ip vpnpt l2tp host]で設定した IP アドレス ※上記のコマンドは内部的なもので設定には表示されません。 ＜注意＞ LAN 型接続の場合、この設定は無効になります。

<table>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">ip vpnpt l2tp mode {off | on}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{off | on}</td><td>off　　L2TP を透過しない（初期値）
on　　L2TP を透過する</td></tr>
</table>

コマンド名	ip vpnpt l2tp host	
タイトル	L2TP パススルーを利用するホストの IP アドレス設定	
説明	L2TP パススルーを利用するホストの IP アドレスを設定します。 ＜注意＞ ・LAN 側ホストの IP アドレスに"*"を設定した場合、LAN 側の複数ホストが L2TP を利用することができますが、通常の NAT の動作と同様に、WAN 側から接続を開始することはできません。 ・LAN 側ホストの IP アドレスに"*"を設定した場合、同一相手先への複数セッション同時使用はできません。 ・LAN 側ホストに IP アドレスを指定した場合、指定したホスト以外は PPTP の通信を行うことはできません。	
書式	ip vpnpt l2tp host {address}	
パラメータ	{address}	L2TP パススルーを利用するホストの IP アドレスまたは "*"（初期値：空白） ※空白の場合は"*"が設定された場合と同じ動作をします。

4. ISDN 設定コマンド

本製品を接続する回線の種類などを設定します。

ここでの設定は、本製品のルータ機能に対してだけ有効になります。TA 機能には反映されません。

コマンド名	isdn global number		
タイトル	グローバル着信を行うかどうかの設定		
説明	通常、グローバル着信を利用すると、発信側がダイヤルした番号(着番号)の通知がない着信でもその着信を許可することができます。 本製品では、着番号の通知がない着信を拒否するか許可するか設定できます。着番号の通知がない着信を拒否するときは「off」を、許可するときは「on」を選択します。		
書式	isdn global number {off|on}		
パラメータ	{off|on}	off	グローバル着信を行わない
		on	グローバル着信を行う(初期値)

コマンド名	isdn global subaddress		
タイトル	サブアドレスグローバル着信を行うかどうかの設定		
説明	本製品にサブアドレスを設定していると(自サブアドレス)、発信側がサブアドレスをダイヤルしなかった場合に、その着信を拒否するか許可するか設定できます。 着アドレスがない着信を拒否するときは「off」を、許可するときは「on」を選択します。		
書式	isdn global subaddress {off|on}		
パラメータ	{off|on}	off	サブアドレスグローバル着信を行わない
		on	サブアドレスグローバル着信を行う(初期値)

コマンド名	isdn number	
タイトル	ルータの ISDN 番号とサブアドレスの設定	
説明	本製品のルータ機能に設定する回線番号とサブアドレスを入力します。 発信時には、ここに入力した番号が相手先に通知されます。空欄のときは、NTT との発信者番号通知サービスの契約内容に従います。 回線番号とサブアドレスは「*」(アスタリスク)または「/」(スラッシュ)で区切ってください。購入時、サブアドレスは「1」と設定されています。	
書式	isdn number {number}[*{subaddress}]	
パラメータ	{number}	ルータの ISDN 番号(初期値:空白)
	{subaddress}	ルータのサブアドレス(初期値:1)

コマンド名	isdn type		
タイトル	回線種別の設定		
説明	本製品を接続する回線の種類を選択します。 ＜注意＞ [回線種別]を変更したときは、本製品を再起動してください。		
書式	isdn type {type}		
パラメータ	{type}	isdn l64 l128	ISDN(初期値) 専用線 64Kbps 専用線 128Kbps

コマンド名	isdn voice in		
タイトル	音声着信の割り込み(リソース BOD)の設定		
説明	ルータ機能で通信中、音声着信要求が来た場合、着信の割り込みを行うか否かを設定します。		
書式	isdn voice in {off | on}		
パラメータ	{off | on}	off on	音声着信の割り込みを許可しない 音声着信の割り込みを許可する(初期値)

コマンド名	isdn voice out		
タイトル	音声発信の割り込み(リソース BOD)の設定		
説明	ルータ機能で通信中、音声発信要求が来た場合、発信の割り込みを行うか否かを設定します。		
書式	isdn voice out {off | on}		
パラメータ	{off | on}	off on	音声発信の割り込みを許可しない 音声発信の割り込みを許可する(初期値)

5. メール着信通知／転送　設定コマンド

パソコンを起動させなくても、本製品が電子メール(メール)の有無を確認して、結果を通知します。

設定した時間になると自動的に本製品がプロバイダに回線を接続して、メールの有無を確認します。メールが着信している場合は、本体前面の MAIL のランプで通知します。

次の点にご注意ください。

・回線を接続するたびに、接続時間に応じた通信料金がかかります。

・自動接続の制限によって自動接続できない場合、メールの有無を確認できるのは次のときです。

・すでに回線が接続されているとき

・本体前面の操作ボタンまたは本製品につながっている電話機から必要な操作を行ったとき

コマンド名	mail display	
タイトル	着信メール一覧ページへの表示の設定	
説明	[着信メール一覧]画面に表示するかどうかを設定します。 [着信メール一覧]画面に表示したい項目をチェックします。複数選択できます。	
書式	mail display {mode} [all cc from size subject to text]	
パラメータ	{mode}	表示ページで表示するかどうか off しない on 表示する
	all	すべてのフィールドを表示する(初期値)
	cc	"cc"フィールドを表示する
	from	"from"フィールドを表示する
	size	メールのサイズを表示する
	subject	"subject"フィールドを表示する
	to	"to"フィールドを表示する
	text	本文を表示する

コマンド名	mail filter	
タイトル	通知するメールの種類(フィルタ)の設定	
説明	通知するメールの条件を設定できます。 着信したメールは条件と比較されます。比較は番号の小さい条件から順に行われ、最初に該当した条件に従って処理されます。	
書式	mail filter {fnumber} {field} {string} {check} {mode} [{use}]	
パラメータ	{fnumber}	1～8　　フィルタ番号

	{field}	照合するフィールド cc　"cc"フィールドを照合 from　"from"フィールドを照合 subject　"subject"フィールドを照合 to　"to"フィールドを照合
	{string}	照合に使用する文字列(半角英数字 128 文字、全角カナ・ひら・英数字 64 文字まで)
	{check}	一致条件 begin　"string"で始まる end　"string"で終る equal　"string"と一致する exclude　"string"を含まない include　"string"を含む notequal　"string"と一致しない
	{mode}	フィルタリング ignore　通知しない notify　通知する forward　通知、転送する
	{use}	フィルタ機能 on　有効 off　無効

コマンド名	mail forward address	
タイトル	転送先メールアドレスの設定	
説明	メールを転送するメールアドレス(E-mail アドレス)を、半角英数字(62 文字まで)で入力します。	
書式	mail forward address {address}	
パラメータ	{address}	転送先メールアドレス(半角英数字 62 文字まで)(初期値:空白)

コマンド名	mail forward mode	
タイトル	メール転送するかどうかの設定	
説明	メールを別のメールアドレスに転送するかどうか選択します。	
書式	mail forward mode {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　メール転送しない(初期値) on　メール転送する

コマンド名	mail forward header	
タイトル	本文に挿入して転送するヘッダの設定	
説明	メールを転送する場合、メールのヘッダ(Subject、From、Date)を、メールの本文に挿入するかどうか選択します。	
書式	mail forward header {mode} [all date from subject]	
パラメータ	{mode}	ヘッダを本文に入れるかどうか off　　ヘッダを本文に入れない(初期値) on　　ヘッダを本文に入れる
	all	全てのヘッダを本文に入れる
	date	"date"フィールドを本文に入れる
	from	"from"フィールドを本文に入れる
	subject	"subject"フィールドを本文に入れる

コマンド名	mail forward srcadrs	
タイトル	転送元メールアドレスの設定	
説明	メールを転送する際に、メールの転送元となるメールアドレス(E-mail アドレス)を、半角英数字(62文字まで)で入力します。[転送先メールアドレス]の設定に間違いがあった場合などは、ここで設定したメールアドレスにエラー通知するメールが返信されます。	
書式	mail forward srcadrs {email_address}	
パラメータ	{email_address}	メール転送元の email アドレス(半角英数字 62 文字まで)(初期値:空白)

コマンド名	mail mode	
タイトル	メール着信通知をするかどうかの設定	
説明	メール着信通知機能を使うかどうか設定します。	
書式	mail mode {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　メール着信通知しない(初期値) on　メール着信通知する

コマンド名	mail pop id	
タイトル	メールアカウントの設定	
説明	メール(POP)サーバ上のユーザ ID またはメールアカウントを、半角英数字(62 文字まで)で入力します。 ※たとえばメールアドレス(E-mail アドレス)が「taro@mn128.co.jp」の場合、「taro」と入力します。	
書式	mail pop id {id}	
パラメータ	{id}	メールアカウント(半角英数字 62 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">mail pop password</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">メールパスワードの設定</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">メール(POP)サーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを、半角英数字(16 文字まで)で入力します。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">mail pop password {password}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{password}</td><td>パスワード(半角英数字 16 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">mail pop auth</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">POP3 認証方式の設定</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">メール(POP)サーバにアクセスするときの認証方式を選択します。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">mail pop auth {normal|apop}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{normal|apop}</td><td>normal　POP3 標準の認証を行う(初期値)
apop　APOP 認証を行う</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">mail pop server</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">メール(POP)サーバの設定</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">アクセスするメールサーバ(POP サーバ)の IP アドレスまたはサーバ名を、半角英数字(62 文字まで)で入力します。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">mail pop server {address}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{address}</td><td>メール(POP)サーバのアドレスまたはドメイン名(半角英数字 62 文字まで)(初期値:空白)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>コマンド名</td><td colspan="2">mail remote</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="2">接続に利用する相手先の選択</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="2">接続する相手先を選択します。</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="2">mail remote {rnumber}</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>{rnumber}</td><td>local　LAN 上のメール(POP)サーバに接続します。
この場合、回線は接続されません。
または、PPPoE を採用していないプロバイダ(WAN ポートからの通信)
を経由して、メールサーバに接続します。
0～15　[接続／相手先登録]画面で設定している相手先や PPPoE を
採用しているプロバイダを経由して、メール(POP)サーバに接続します。
相手先は、あらかじめ[接続／相手先登録]で設定してください。
(初期値:0)</td></tr>
</table>

コマンド名	mail smtp server	
タイトル	転送元メール(SMTP)サーバの設定	
説明	メールサーバ(SMTP サーバ)の IP アドレスまたはサーバ名を、半角英数字(62 文字まで)で入力します。省略した場合は、[メール(POP)サーバ]の内容に従います。	
書式	mail smtp server {address}	
パラメータ	{address}	SMTP サーバのアドレスまたはドメイン名(半角英数字 62 文字まで)(初期値:空白)

コマンド名	mail time	
タイトル	メール着信確認の時刻／時間間隔の設定	
説明	メールの確認を[指定時刻]あるいは[指定時間間隔]のいずれで行うかを選択します。 [at]を選択した場合、時:分は「XX:XX」の形式で最大 5 つまで設定できます(区切りには半角コンマを使用)。日間隔は 1～7 の範囲で設定します。 [every]を選択した場合、時間間隔を 10 分単位で設定します(10～1440 分)。	
書式	mail {1..2} time at {time1}[,{time2},{time3},{time4},{time5}/{days}] mail {1..2} time every {minutes}	
パラメータ	{time1}	メール着信確認の時刻(HH:MM)
	{time2}	メール着信確認の時刻(HH:MM)
	{time3}	メール着信確認の時刻(HH:MM)
	{time4}	メール着信確認の時刻(HH:MM)
	{time5}	メール着信確認の時刻(HH:MM)
	{days}	1～7 日間隔
	{minutes}	10～1440 分間隔(10 分単位)

コマンド名	mail ack
タイトル	メールの受信確認
説明	本体全面の MAIL ランプの点滅を消します。

コマンド名	mail check
タイトル	手動メール着信通知
説明	着信メールの確認を直ちに行います

コマンド名	mail erase
タイトル	着信メール一覧の消去
説明	表示されている着信メールを消去します。

6. 接続相手先設定コマンド

相手先に接続するための設定をします。

コマンド名	remote {rnumber} answer auth	
タイトル	着信時の認証プロトコルの設定	
説明	相手先から着信されて接続するときの認証プロトコルを選択します。	
書式	remote {rnumber}　answer auth {authentication}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{authentication}	none　認証を行わない either　相手先に合わせる(初期値) pap　PAP chap　CHAP mschapv2　MS-CHAPv2 chapany　MS-CHAPv2 または CHAP

コマンド名	remote {rnumber} answer callback number	
タイトル	コールバック要求受信時の折り返し電話番号の設定	
説明	こちらから回線を接続し直す電話番号を設定できます。 相手先が発信に使った端末の電話番号にかけ直すとき、あるいは、相手先がかけ直す電話番号を指定しているときは、設定する必要ありません。	
書式	remote {rnumber} answer callback number {cnumber}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{cnumber}	折り返し番号(電話番号[32 桁まで]*サブアドレス[19 桁まで])(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} answer callback permit
タイトル	コールバック要求に応じるかどうかの設定
説明	接続を要求された側が着信を許可する代わりに接続を要求した側に回線を接続し直すことを、「コールバック接続」といいます。コールバック接続では、回線を接続し直した側に通信料金がかかります。 本製品がコールバック接続できるのは、相手先が MN128-SOHO シリーズ(本製品を含む)、MN128-R もしくは CBCP(Callback Control Protocol)対応の端末(Windows98 のダイヤルアップネットワークなど)を使っているときだけです。着信されたときに、相手先からのコールバック接続要求を許可するかどうか設定します。 ＜注意＞ ・コールバック接続を要求される側(本製品側)は相手先に発信電話番号を通知してください。本製品側が INS ネット 64 契約時に「発信者番号通知サービス」を「常時非通知(常時通知拒否)」にした場合、本製品からコールバックしても相手先に着信できません。 ・相手先が無課金コールバック接続を要求するときは、相手先から発信電話番号を通知してもらう

	必要があります。相手先がINS ネット64 契約時に「発信者(通知拒否)通知サービス」を「常時非通知(常時通知拒否)」にした場合、本製品から無課金コールバックできません。 ・相手先が CBCP コールバック接続を要求する場合、相手先が発信に使った機器の電話番号にかけ直すときは、相手先から発信電話番号を通知してもらう必要があります。 相手先がかけ直す番号を指定しているとき、あるいは、本製品で折り返し電話番号を指定しているときは、「発信者番号通知サービス」の内容に関わらずコールバックできます。	
書式	remote {rnumber} answer callback permit {off|on|only}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on|only}	off　相手からのコールバック要求に応じない(初期値) on　相手からのコールバック要求に応じる only　相手からのコールバック要求にのみ応じる(通常着信は拒否する)

コマンド名	remote {rnumber} answer channel	
タイトル	着信時の通信チャネルの設定	
説明	相手先から着信されたときに使用するB チャネルの数を選択します。 ＜注意＞ この設定は、着信時に通知された発信者番号と、設定された相手先番号が一致するときのみ有効となります。相手先番号が設定されていない場合は、常に「2B(128Kbps)まで着信を許可する」になります。	
書式	remote {rnumber} answer channel {channel}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{channel}	2b　2B(128Kbps)まで着信を許可する(初期値) 1b　1B(64Kbps)に限定する

コマンド名	remote {rnumber} answer permit	
タイトル	相手からの着信に応じるかどうかの設定	
説明	相手先からの着信を許可するかどうかを選択します。	
書式	remote {rnumber} answer permit {off|on }	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　相手からの着信に応じない(初期値) on　相手からの着信に応じる ※radius パラメータには対応していません。

コマンド名	remote {rnumber} answer schedule terminate
タイトル	終了時刻で強制的に回線を切断するかどうかの設定
説明	終了時刻になったときに、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを設定します。 ＜注意＞ 時間帯による着信の制限を設定するときは、必ず、[現在本体に設定されている日付と時刻]で日付

	と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源を OFF にして 24 時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、回数制限によって積算された時間がリセットされます。ご注意ください。	
書式	remote {rnumber} answer schedule terminate {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　終了時刻で強制切断しない on　終了時刻で強制切断する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} answer schedule time	
タイトル	着信を許可する時間帯の設定	
説明	着信できる時間帯を設定します。	
書式	remote {rnumber} answer schedule time {starttime} {endtime}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{starttime}	開始時刻(HH:MM)(初期値:00:00)
	{endtime}	終了時刻(HH:MM)(初期値:00:00)

コマンド名	remote {rnumber} answer schedule use	
タイトル	時間帯によって着信制限を行うかどうかの設定	
説明	着信できる時間帯を制限できます。	
書式	remote {rnumber} answer schedule use {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　制限なし on　設定された時間帯のみ着信許可

コマンド名	remote {rnumber} bod connect	
タイトル	スループット BOD による B チャネル追加の設定	
説明	通信中にスループット BOD 機能を使用して、B チャネルを追加する際のパラメータを設定します。評価時間ごとに通信量を判定し、「計測回数」以上連続して「回線利用率」を越えた場合、B チャネルが追加されます。一度 B チャネルが追加されると、最小保持時間が経過するまで B チャネルは削除されません。ただし、[自動切断タイマ 1/2]で設定した時間が最小保持時間より短いなどの場合は、自動切断によって回線が切断されることがあります。	
書式	remote {rnumber} bod connect {rate} {times} {interval} {hold}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{rate}	10～100　発信負荷閾値(%)(初期値:70)
	{times}	1～100　計測回数(初期値:1)
	{interval}	5～100　負荷計測間隔(秒)(初期値:10)
	{hold}	1～25　最小保持時間(秒)(初期値:10)

コマンド名	remote {rnumber} bod disconnect	
タイトル	スループット BOD によるチャネル削除の設定	
説明	通信中にスループット BOD 機能を使用して、B チャネルを削除する際のパラメータを設定します。評価時間ごとに通信量を判定し、「計測回数」以上連続して「回線利用率」を下回った場合、B チャネルが削除されます。	
書式	remote {rnumber} bod disconnect {rate} {times} {interval}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{rate}	10～50　切断負荷閾値(%)(初期値:30)
	{times}	1～100　計測回数(初期値:2)
	{interval}	5～100　負荷計測間隔(秒)(初期値:10)

コマンド名	remote {rnumber} call auth	
タイトル	発信時の認証プロトコルの設定	
説明	本製品から発信して接続するときの認証プロトコルを選択します。 相手先に合わせてください。	
書式	remote {rnumber} call auth {authentication}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{authentication}	none　認証を行わない either　相手先に合わせる(初期値) pap　PAP chap　CHAP mschapv2　MS-CHAPv2

コマンド名	remote {rnumber} call auto	
タイトル	自動ダイヤルアップを行うかどうかの設定	
説明	IP 経路情報の自動接続用の経路の設定にかかわらず、指定した相手先への自動接続を許可するかどうかを設定します	
書式	remote {rnumber} call auto {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　相手先への自動ダイヤルアップを行わない on　相手先への自動ダイヤルアップを行う(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} call callback number
タイトル	コールバック要求時の折り返し電話番号の設定
説明	[コールバック発信]で[CBCP]を選択した場合、コールバック接続時に相手先にかけ直してもらう電話番号を設定できます。

	[ISDN 設定]の[ISDN 番号* サブアドレス]にかけ直してもらう場合や、[コールバック発信]で[無課金]を選択した場合は、設定する必要ありません。
書式	remote {rnumber} call callback number {cnumber}
パラメータ	{rnumber}　0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{cnumber}　折り返し番号(電話番号[32 桁まで]*サブアドレス[19 桁まで])(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} call callback request
タイトル	コールバック要求を行うかどうかの設定
説明	接続を要求された側が着信を許可する代わりに接続を要求した側に回線を接続し直すことを、「コールバック接続」といいます。コールバック接続では、回線を接続し直した側に通信料金がかかります。 こちらから発信したときに、相手先にコールバック接続を要求するかどうか設定します。ただし、相手先は、CBCP(Callback Control Protocol)に対応している端末あるいは MN128-SOHO シリーズ(本製品含む)、MN128-R に限ります。 ＜注意＞ ・無課金コールバックの相手先は、MN128-SOHO シリーズ(本製品含む)、MN128-R に限ります。 ・無課金のコールバック接続を要求するときは、発信時に相手先に発信電話番号を通知する必要があります。INS ネット 64 契約時に「発信者番号通知サービス」を「常時非通知(常時通知拒否)」にした場合、無課金のコールバック接続を要求できません。 ・PPPoE を採用しているプロバイダに接続する場合や PPTP で接続する場合は、CBCP コールバックおよび無課金コールバックはできません。[コールバック発信]で「CBCP」や「無課金」に設定しても、無効になります。
書式	remote {rnumber} call callback request {callback}
パラメータ	{rnumber}　0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{callback}　off　コールバックを要求しない(初期値) cbcp　CBCP コールバックを要求する stealth　無課金コールバックを要求する

コマンド名	remote {rnumber} call schedule terminate
タイトル	終了時刻で強制的に回線を切断するかどうかの設定
説明	終了時刻になったときに、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを設定します。
書式	remote {rnumber} call schedule terminate {off|on}
パラメータ	{rnumber}　0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}　off　終了時刻で強制切断しない on　終了時刻で強制切断する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} call schedule time	
タイトル	自動接続可能な時間帯の設定	
説明	自動接続を制限するための時間帯を設定します。	
書式	remote {rnumber} call schedule time {starttime} {endtime}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{starttime}	開始時刻(HH:MM)(初期値:00:00)
	{endtime}	終了時刻(HH:MM)(初期値:00:00)

コマンド名	remote {rnumber} call schedule use	
タイトル	時間帯によって自動接続を制限するかどうかの設定	
説明	時間帯によって自動接続を制限できます。	
書式	remote {rnumber} call schedule use {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　制限なし(初期値) on　設定された時間帯のみ自動接続可能

コマンド名	remote {rnumber} channel	
タイトル	通信チャネルの設定	
説明	どのように通信するかを選択します。あらかじめ、相手先(プロバイダなど)の接続条件を確認してください。 ＜メモ＞ [1B(64Kbps/MP)][1B(64Kbps/MP+BACP)]を選択すると、手動でもう 1B チャネルを追加して MP で通信することができます。 B チャネル追加後は、回線を切断するまで 2B チャネル(128Kbps)で通信します。 ＜注意＞ [1B(PIAFS 64Kbps)]または[1B(PIAFS Ver.2.1)]で通信する場合は、次の点に注意してください。 ・[1B(PIAFS 64Kbps)]または[1B(PIAFS Ver.2.1)]で発信するときは、相手先に発信者番号を通知する必要があります。相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信してください。 ・[1B(PIAFS 64Kbps)]または[1B(PIAFS Ver.2.1)]で発信するときは、相手先にサブアドレスを通知しません。相手先が着信時の電話番号の認証にサブアドレスを使用しているときは、着信できません。 ・INS ネット 64 契約時に発信者番号通知サービスを「常時非通知(常時通知拒否)」で契約した場合は、[1B(PIAFS 64Kbps)]または[1B(PIAFS Ver.2.1)]で発信できません。 ・PIAFS 64K の利用可能地域や対応機種などについては、NTT DoCoMo または DDIPocket までお問い合わせください。	
書式	remote {rnumber} channel {channel}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)

	{channel}	1bppp 1B(64Kbps)(初期値) 1b 1B(64Kbps/MP) 1bbacp 1B(64Kbps/MP+BACP) 2b 2B(128Kbps/MP) 2bbacp 2B(128Kbps/MP+BACP) bod 可変(BOD) bodbacp 可変(BOD+BACP) piafs 1B(PIAFS 32Kbps) piafs64 1B(PIAFS 64Kbps) piafsv21 1B (PIAFS Ver.2.1) pccard PC カード(スロット) pppoe PPP over Ethernet(ランプなし) pppoeled PPP over Ethernet(ランプ点灯)

コマンド名	remote {rnumber} disconnect change idle	
タイトル	自動切断タイマ2の設定	
説明	指定時間内だけ[自動切断タイマ 1]の値を変更したいときに設定します。	
書式	remote {rnumber} disconnect change idle {time}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{time}	0(無制限), 10～9999 自動切断タイマ値(秒)(初期値:0)

コマンド名	remote {rnumber} disconnect change terminate	
タイトル	時間帯の終了時刻で強制切断するかどうかの設定	
説明	終了時刻になったときに、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} disconnect change terminate {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off 終了時刻で強制切断しない on 終了時刻で強制切断する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} disconnect change time	
タイトル	タイマ2を使用する時間帯の設定	
説明	自動切断タイマ2を使用する時間帯を設定します。	
書式	remote {rnumber} disconnect change time {starttime} {endtime}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{starttime}	開始時刻(HH:MM)(初期値:23:00)
	{endtime}	終了時刻(HH:MM)(初期値:07:55)

コマンド名	remote {rnumber} disconnect change use	
タイトル	時間帯によって自動切断タイマを変更するかどうかの設定	
説明	時間帯によって自動切断タイマを変更するかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} disconnect change use {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　常にタイマ1(初期値) on　タイマ1、指定の時間帯のみタイマ2に変更

コマンド名	remote {rnumber} disconnect idle	
タイトル	自動切断タイマ1の設定	
説明	相手先に回線を接続中に一定時間以上通信がないときは、自動的に回線を切断することができます。 自動切断するまでの一定時間(10 ～ 9999 秒)を入力します。自動切断しないときは、「0」(ゼロ)と入力します。	
書式	remote {rnumber} disconnect idle {time}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{time}	0(無制限), 10～9999　自動切断タイマ値(秒)(初期値:150)

コマンド名	remote {rnumber} disconnect max	
タイトル	最大接続時間の設定	
説明	相手先との接続を保持する最大時間を制限できます。回線接続後、設定した時間が経過すると、通信中でも回線を切断します。「分(10 ～ 9999)」を入力します。接続時間を制限しないときは、「0」(ゼロ)と入力します。 **＜注意＞** **最大接続時間の制限を設定するときは、必ず、本製品に設定されている日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源を OFF にして 24 時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、回数制限によって積算された時間がリセットされます。ご注意ください。**	
書式	remote {rnumber} disconnect max {time}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{time}	0(無制限), 10～9999　最大接続時間(分)(初期値:180)

コマンド名	remote {rnumber} dnsserver
タイトル	相手先 DNS サーバアドレスの設定
説明	相手先の DNS サーバの IP アドレスを入力します。 [AutoDNS 機能]を ON にしているときだけ有効になります。 ＜メモ＞

	●[DNS サーバアドレス]を設定するとき AutoDNS 機能を使うと、接続した相手先の DNS サーバの IP アドレスを自動的に取得します。そのため、相手先の DNS サーバの IP アドレスを設定する必要はありません。 しかし、接続する相手先によっては、DNS サーバの IP アドレスを自動的に取得できないことがあります。接続後に正しく通信できない場合には、[DNS サーバアドレス]を設定してください。 DNS サーバの IP アドレスを取得できたかどうかは、[接続状況]画面で確認できます。	
書式	remote {rnumber} dnsserver {address}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{address}	相手先 DNS サーバアドレス(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} dos mode	
タイトル	DoS 攻撃防御を利用するか否かの設定	
説明	本製品で DoS 攻撃防御機能を利用する設定を行った場合でも、接続相手先によってはその機能を利用したくないことがあります。このコマンドでは、接続相手先ごとに DoS 攻撃防御機能を利用するかどうか設定できます。	
書式	remote {rnumber} dos mode {on|off}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{on|off}	on　DoS 攻撃防御機能を利用する(初期値) off　DoS 攻撃防御機能を利用しない

コマンド名	remote {rnumber} dos log	
タイトル	ログ出力を利用するか否かの設定	
説明	接続相手先ごとに DoS 攻撃防御機能のログを出力するかどうか設定できます。	
書式	remote {rnumber} dos log {on|off}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{on|off}	on　出力する(初期値) off　出力しない

コマンド名	remote {rnumber} encrypt secret
タイトル	鍵配送鍵の設定
説明	独自暗号化の場合、送信するデータを暗号化するために「データ鍵」を使います。 そのデータ鍵を暗号化する「鍵配送鍵」を、英数字(4 ～ 16 文字)で入力します。 どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。 こちらと相手先とで、同じ英数字(鍵配送鍵)を設定してください。 なお、データ鍵は接続するたびに乱数を使って本製品内部で作られます。通信中も[データ鍵更新時間]で設定した時間ごとに変更されます。
書式	remote {rnumber} encrypt secret {secret}

パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{secret}	鍵配送鍵(英数字で 4 文字から 16 文字まで。"no","clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} encrypt update	
タイトル	データ鍵更新時間の設定	
説明	接続後に、相手先にデータ鍵の変更を要求できます。 要求する時間間隔(1 ～ 1440 分)を入力します。回線を切断するまでデータ鍵を変更しないときは、「0」(ゼロ)と入力します。	
書式	remote {rnumber} encrypt update {time}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{time}	0(無制限), 1～1440　更新時間タイマ値(分)(初期値:30)

コマンド名	remote {rnumber} encrypt use	
タイトル	暗号化を行うかどうかの設定	
説明	本製品から送信するデータを暗号化するかどうかを設定します。 本製品は、MPPE、および、独自暗号化に対応しています。独自暗号化の場合、通信可能な相手先は MN128-SOHO シリーズ、および、MN128-R のみです。	
書式	remote {rnumber} encrypt use {param}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{param}	off　暗号化を行わない(初期値) original　独自方式の暗号化を使用する mppe-40　MPPE(鍵長 40bit)の暗号化を使用する mppe-128　MPPE(鍵長 128bit)の暗号化を使用する mppe-any　MPPE(鍵長 40bit または 128bit)の暗号化を使用する

コマンド名	remote {rnumber} limit charge
タイトル	料金制限の設定
説明	一定期間当たりの通信料金を制限できます。積算された通信料金が制限を越えると、自動接続できなくなります。 「円(10～100000)/日(1～7)」を入力します。通信料金を制限しないときは、「0」(ゼロ)と入力します。 ふたたび自動接続したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。 ・[料金による制限]の金額を増やし、再度設定する ・[自動接続制限]画面で料金制限をリセットする ＜注意＞ ・一定期間当たりの料金の制限を設定するときは、必ず、本製品の日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源を OFF にして 24 時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、料金制限によって積算された日数がリセットされます。ご

	注意ください。 ・通信料金は回線切断後に確定します。そのため、回線接続中の通信料金は、[情報表示(自動接続制限)]画面の[料金制限](現在)に反映されません。 ・通信料金は、実際の料金請求額と異なることがあります。 ・次の場合は、ISDN 回線網から料金情報が通知されないため料金による自動接続制限が正しく働きません。ご注意ください。 ・NTT 東日本／ NTT 西日本以外の電話会社を利用した場合 ・各電話会社の料金割引サービスを利用した場合 ・PHS 電話機に発信した場合 ・PHS 電話機を利用した機器に PIAFS で発信した場合 ・PHS 電話機を利用した機器からのアクセスを受信した際に、本製品からコールバックした場合 ・PHS 電話機を利用した機器からのアクセスを受信した際に、本製品からコールバックした場合 ・PPPoE を採用しているプロバイダに接続した場合 たとえば、INS ネット 64 のテレホーダイを利用する場合は、通常の通信時と同様に INS ネットから接続時間当たりの料金情報が通知されます。そのため、実際の通信料金が制限を越える前に、自動接続できなくなることがあります。料金による制限は、あくまでも目安です。[情報表示(接続／切断ログ)]画面や[情報表示(通信料金)]画面などを確認しながら使ってください。 ・ネットワークやパソコンの設定内容や運用によっては正しく動作しないことがあります。	
書式	remote {rnumber} limit charge {charge}/{period}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{charge}	0(無制限), 10～100000　制限料金(円)(初期値:3000)
	{period}	1～7　積算期間(日)(初期値:7)

コマンド名	remote {rnumber} limit reconnect permit	
タイトル	最大接続時間経過後の再発信制限の設定	
説明	最大接続時間の設定よって回線が切断されたあと、自動接続を禁止できます。 自動接続できなくなった場合、[情報表示(自動接続制限)]画面で再発信制限をリセットすると、ふたたび自動接続できるようになります。	
書式	remote {rnumber} limit reconnect permit {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　最大接続時間経過後の再発信を許可しない(初期値) on　最大接続時間経過後の再発信を許可する

コマンド名	remote {rnumber} mode	
タイトル	接続モードの設定	
説明	相手先とどのように接続するかを選択します。	
書式	remote {rnumber} mode {mode}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)

	{mode}	lan　　　LAN 型接続 terminal　端末型接続(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} mtu	
タイトル	PPP、PPPoE、PPTP 使用時の MTU 値設定	
説明	通信時の MTU(Maximum Transmission Unit)の値の設定をします。	
書式	remote {rnumber} mtu {mtu_value}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	mtu_value	540-1500 MTU 値 (初期値:0) ※0 の場合、PPPoE の場合は内部的に 1492、それ以外は内部的に 1500 が使用されます。

コマンド名	remote {rnumber} name	
タイトル	相手先名称の設定	
説明	相手先の名称を、半角英数字(32 文字まで)または全角ひらがな、漢字、英数字(16 文字まで)入力します。設定した名称は、詳細設定ページの画面左側に反映されます。 通信には使用されませんので、わかりやすい名前を入力してください。	
書式	remote {rnumber} name {name}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{name}	相手先名称(半角英数 32 文字、または、全角ひらがな、漢字、英数字(16 文字まで)まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} number	
タイトル	相手先電話番号の設定	
説明	相手先の電話番号(32 桁以内)とサブアドレス(19 桁以内)を入力します。電話番号とサブアドレスは、「*」(アスタリスク)または「/」(スラッシュ)で区切ってください。 PPTP を使って通信する場合は、IP アドレスを入力します。 ・発信するとき:PPTP サーバの IP アドレス ・着信するとき(PPTP クライアントを限定するとき):PPTP クライアントの IP アドレス PPPoE を採用しているプロバイダに接続する場合は、[相手先電話番号1]に「pppoe」と入力してください。 2個めの相手先電話番号は、次のように使われます。 ・着信するとき:[相手先電話番号 1]と一致しなかった場合、[相手先電話番号 2]を使って比較します。 ※発信時には使用されません。	
書式	remote {rnumber} number {number}[*{subaddress}] [{number2}*{subadress2}]	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)

	{number}	相手先番号(半角数字、および、"-", "(", ")", "*", "/", "."32 文字まで)(初期値:空白) ISDN の場合・・・相手先 ISDN 番号(半角数字 32 桁まで) PPPTP の場合・・・PPTP サーバまたは PPTP クライアント IP アドレス PPPoE の場合・・・"pppoe"
	{subaddress}	相手先サブアドレス(半角英数字 19 文字まで)(初期値:空白)
	{number2}	相手先番号(半角数字、および、"-", "(", ")", "*", "/", "."32 文字まで)(初期値:空白)
	{subaddress2}	相手先サブアドレス(半角英数字 19 文字まで)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} ppp ipcp address	
タイトル	IPCP の IP アドレスオプションを使用するかどうかの設定	
説明	接続時に IP アドレスオプションのネゴシエーションを行なうかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} ppp ipcp address {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　IP アドレスオプションを使用しない on　IP アドレスオプションを使用する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} ppp ipcp dns	
タイトル	IPCP の DNS サーバオプションを使用するかどうかの設定	
説明	接続時に DNS サーバアドレスのネゴシエーションを行なうかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} ppp ipcp dns {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off　DNS サーバオプションを使用しない on　DNS サーバオプションを使用する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} receive id	
タイトル	受信ユーザ ID の設定	
説明	着信時の認証にユーザ ID を使うときに設定します。半角英数字(32 文字まで)で入力します。	
書式	remote {rnumber} receive id {user-id}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{user-id}	ユーザ ID(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} receive password	
タイトル	受信パスワードの設定	
説明	着信時の認証にパスワードを使うときに設定します。半角英数字(32 文字まで)で入力します。	
書式	remote {rnumber} receive password {password}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{password}	受信パスワード(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} rmtaddress	
タイトル	相手先ルータアドレスの設定	
説明	相手先ルータの IP アドレスを設定します。	
書式	remote {rnumber} rmtaddress {address}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{address}	相手先ルータの IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} send id	
タイトル	送信ユーザ ID の設定	
説明	認証に必要なユーザ ID を、半角英数字(64 文字まで)で入力します。相手先(プロバイダなど)から指定されたユーザ ID を入力します。	
書式	remote {rnumber} send id {user-id}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{user-id}	ユーザ ID(半角英数字 64 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} send password	
タイトル	送信パスワードの設定	
説明	認証に必要なパスワードを、半角英数字(32 文字まで)で入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。	
書式	remote {rnumber} send password {password}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{password}	送信パスワード(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} wanaddress
タイトル	WAN 側の IP アドレスの設定
説明	相手先との接続形態が LAN 型で、WAN 側で別のサブネットを使用する numbered 接続のとき、本製品

	の WAN 側の IP アドレスを設定します。	
書式	remote {rnumber} wanaddress [{address}]/{mask}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{address}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)(初期値:空白)
	{mask}	IP ネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} pppoe always	
タイトル	PPPoE セッションキープアライブ拡張機能の設定	
説明	セッションキープアライブ拡張機能を使うと、相手先が PPPoE を採用しているプロバイダの場合、本製品の起動時に自動的にプロバイダに接続し、接続中に何らかの理由で切断された場合、自動的にプロバイダに再接続します。また、プロバイダに再接続している最中に、意図的な発信や自動接続で接続に失敗した場合もセッションキープアライブ拡張機能が動作します。なお、セッションキープアライブ拡張機能を使用すると、LCP エコーチェック機能も LCP エコーチェック機能の設定にかかわらず自動的に「使用する」状態になります。 なお、バックアップを指定すると、PPPoE セッションが使用できないときに接続を試みるバックアップ用の接続相手先を指定することができます。PPPoE セッションが使用できないために、バックアップ用相手先と接続している間も、PPPoE セッションの回復を監視します。(PPPoE セッションが使用可能となった場合には、バックアップ用の接続を切断します) セッションキープアライブ拡張機能が停止するのは、意図的に切断した場合のみです。なお、セッションキープアライブ拡張機能による再接続は自動接続制限の対象になりません。	
書式	remote {rnumber} pppoe always {mode} mode が backup の場合 remote {rnumber} pppoe always backup remote {backup-rnumber}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{mode}	セッションキープアライブ拡張機能を使用するかどうか off 使用しない(初期値) on 使用する
	{backup-rnumber}	0～15 バックアップ用相手先番号(登録番号#0～#15) backup バックアップ機能を使用する

コマンド名	remote {rnumber} pppoe aname	
タイトル	PPPoE アクセス名の設定	
説明	PPPoE を採用しているプロバイダに接続する際、プロバイダからサーバ名(ACName)を指定された場合、そのサーバ名を設定します。 ＜注意＞ **このコマンドは、プロバイダから指定された場合のみ設定してください。**	
書式	remote {rnumber} pppoe aname {aname}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{aname}	PPPoE アクセス名の設定(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} pppoe echo	
タイトル	LCP エコーチェック機能の設定	
説明	LCP エコーチェック機能を使うと、PPPoE を採用しているプロバイダに接続中に、本製品側からプロバイダ側へ１分ごとに LCP エコー要求パケットを送信し、正しく接続しているかどうかをチェックします。プロバイダ側からの応答がない場合は、本製品側から切断します。購入時は LCP エコーチェック機能を使用する設定になっています。	
書式	remote {rnumber} pppoe echo {off｜on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off｜on}	LCP エコーチェック機能を使用するかどうか off　使用しない on　使用する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} pppoe keepalive	
タイトル	セッションキープアライブ機能の設定	
説明	セッションキープアライブ機能を使用するかどうか、設定します。	
書式	remote {rnumber} pppoe keepalive {off|on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off|on}	off セッションキープアライブ機能を使用しない(初期値) on　セッションキープアライブ機能を使用する

コマンド名	remote {rnumber} pppoe mss mode	
タイトル	MSS 変換機能の設定	
説明	MSS 変換機能を使うと、PPPoE を採用しているプロバイダに接続する場合に、TCP のオプションである MSS の値を変更できます。MSS の値を変更しないと通信できないアプリケーション(ネットワークゲームを含む)を使うときや、MSS の値を変更しないと通信できないサーバにアクセスするときなどは、この機能を使用します。購入時は MSS 変換機能を使用する設定になっています。	
書式	remote {rnumber} pppoe mss mode {off｜on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)
	{off｜on}	off　使用しない on　使用する(初期値)

コマンド名	remote {rnumber} pppoe mss size
タイトル	MSS 値の設定
説明	PPPoE を採用しているプロバイダに接続する場合に、TCP のオプションである MSS の値を任意に設定します。MSS 値変換機能を使用する設定になっているときのみ有効です。購入時、MSS の値は「1322」に設定されています。
書式	remote {rnumber} pppoe mss size {size}

パラメータ	{rnumber}	0～15　　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{size}	500～1460 MSS の値(初期値=1322)

コマンド名	remote {rnumber} pppoe sname	
タイトル	PPPoE サービス名の設定	
説明	PPPoE を採用しているプロバイダに接続する際、プロバイダからサービス名(Service-Name)を指定された場合、そのサービス名を設定します。 ＜注意＞ **このコマンドは、プロバイダから指定された場合のみ設定してください。**	
書式	remote {rnumber} pppoe sname {sname}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{sname}	pppoe サービス名の設定(初期値:空白)

コマンド名	remote {rnumber} route	
タイトル	あて先ドメイン名の設定	
説明	設定したドメイン名、または、アドレス宛のパケットが来た場合、指定した接続相手先経由で通信します。 カンマで区切り 4 つまで設定できます。入力可能な文字数は、それぞれ半角 62 文字までです。	
書式	remote {rnumber} route {src}[/{srcmask}] {dst}[/{dstmask}] {protocol} {dstport} remote {rnumber} route {src}[-{srcrange}] {dst}[-{dstrange}] {protocol} {dstport}	
パラメータ	{rnumber}	0～15　　相手先番号(登録番号#0～#15)
	{src}	送信元 IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数、または、"*" (全て))(初期値:空白)
	{srcmask}	送信元ネットワークマスク(マスクビット数)
	{srcrange}	送信元アドレス範囲(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)
	{dst}	あて先ドメイン名、または、あて先 IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数、または、"*" (全て)) カンマで区切り 4 つまで設定できます、1 つの設定は半角 62 文字まで。
	{dstmask}	あて先ネットワークマスク(マスクビット数)
	{dstrange}	あて先アドレス範囲(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)
	{protocol}	プロトコル番号(1～255)、またはニーモニック ニーモニック : "esp","gre","icmp","ipencap","tcp","udp" ("*"は全て)
	{dstport}	あて先ポート番号(1～65535)、またはニーモニック("*"は全て) ニーモニック : "ftp", "ftpdata", "telnet", "smtp", "www", "pop3", "sunrpc", "nntp", "ntp", "login", "pptp", "domain", "route", "who"

7. 本体設定用設定コマンド

本体の各種設定を行います。

コマンド名	sys adjust interface	
タイトル	NTP サーバへの経由先の設定	
説明	時刻を問い合わせる NTP サーバにアクセスするために経由する相手先を選択します。	
書式	sys adjust interface {ifname} [{rnumber}]	
パラメータ	{ifname}	local　LAN 内の NTP サーバにアクセスするときや、PPPoE を採用していないプロバイダ(WAN ポートからの通信)を経由するとき remote　PPP または PPPoE を採用しているプロバイダを経由するとき(初期値)
	{rnumber}	0～15　相手先番号(登録番号#0～#15)(初期値:0)

コマンド名	sys adjust period	
タイトル	修正する間隔(日)の設定	
説明	時刻を自動的に修正する日数間隔を、半角数字 1 ～ 7 の範囲で入力します。	
書式	sys adjust period {day}	
パラメータ	{day}	1～7　時刻修正を行う間隔 (日)(初期値:7)

コマンド名	sys adjust server	
タイトル	NTP サーバアドレスの設定	
説明	時刻を問い合わせる NTP サーバの IP アドレスを入力します。 購入時は「133.100.9.2」と入力されています。 **※IP アドレスは、ドットノーテーション(XXX.XXX.XXX.XXX の形式)で入力します。**	
書式	sys adjust server {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリ NTP サーバアドレス(初期値:133.100.9.2)
	{secondary}	セカンダリ NTP サーバアドレス

コマンド名	sys adjust use	
タイトル	時刻修正機能を使うか否かの設定	
説明	時刻修正機能を使うかどうかを選択します。	
書式	sys adjust use {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　時刻修正機能を使用しない on　時刻修正機能を使用する(初期値)

コマンド名	sys kcode	
タイトル	文字コードの設定	
説明	telnet から設定する場合に表示する文字コードを設定します。	
書式	sys kcode {kcode}	
パラメータ	{kcode}	文字コード euc　日本語(EUC) sjis　日本語(SJIS)（初期値） none　英語 jis　日本語(JIS)

コマンド名	sys name	
タイトル	本製品の名称の設定	
説明	本製品の名称を英数字で設定します。購入時は、「MN128-SOHO-IB3」と設定されています。 設定した内容は、全設定ページの画面左側に反映されます。 また、設定ページへアクセスするときに使用できます。	
書式	sys name {name}	
パラメータ	{name}	本製品の名称(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)（初期値:MN128-SOHO-IB3）

コマンド名	sys schedule charge erase use	
タイトル	通信料金情報の消去モードの設定	
説明	[情報表示(通信料金)]画面に表示される情報を、月に1回自動的に消去するかどうかを設定します。	
書式	sys schedule charge erase use {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　通信料金情報を消去しない(初期値) on　毎月決まった日に通信料金情報を消去する

コマンド名	sys schedule charge erase day	
タイトル	通信料金情報の消去日の設定	
説明	通信料金情報を消去するときは、日にちを設定します。	
書式	sys schedule charge erase day {clearday}	
パラメータ	{clearday}	1～31　通信料金情報を消去する日(初期値:1)

コマンド名	sys time
タイトル	本体の日付と時刻の設定
説明	「1996/01/01-00:00」のように、西暦(4 桁)、月、日、時刻を入力します。西暦、月、日は「/」(スラッ

	シュ)で、日付と時刻は「-」(ハイフン)で区切ってください。設定した内容は、情報表示の各画面に反映されます。 ＜メモ＞ ●本製品の日付と時刻の設定方法 本製品に日付と時刻を設定する方法には、手動設定と自動設定があります。 ・手動設定 (1)[本体設定]画面の[設定する日付と時刻]で設定します。 (2)[クイック設定]で設定を行います。自動的に、設定を行ったパソコンの日付と時刻が設定されます。 (3)「時刻修正機能」を使用する設定を行い、「adjust」コマンドで時刻修正を実行します。 ※ (1)(3)の方法で設定した場合は、すでに日付と時刻が設定されているかどうかに関わらず、その設定内容に更新されます。 ・自動設定 次のような場合に、自動的に日付と時刻が設定されます。 (1)本製品の電源をON にしたときに日付と時刻が設定されていない場合、本製品はLAN 上に時刻を要求するパケットを送信します。LAN 上に Unix マシンなどのタイムサーバ機能を持ったサーバが接続されている場合は、そのサーバから時刻を返答するパケットが送信されます。本製品はそのパケットを受信して、その内容を設定します。複数のサーバから時刻を返答するパケットが送信された場合は、最初に受信したパケットの内容を設定します。 (2)上記(1)でパケットを受信できなかった場合は、本製品のルータ機能を使って回線を接続したときに、相手先の DNS サーバに対して(LAN 上の DNS サーバを指定している場合は、そのサーバが優先されます)時刻を要求するパケットを送信します。相手先の DNS サーバから時刻を返答するパケットが送信されると、本製品はそのパケットを受信して、その内容を設定します。ただし、本製品同士を接続した場合、自動設定は行われないことがあります。 (3)「時刻修正機能」を使用する設定を行います。	
書式	sys time {date-time}	
パラメータ	{date-time}	本体に設定する日付と時刻(yyyy/mm/dd-hh:mm)(初期値:1996/1/1 00:00)

8. ユーザ用設定コマンド

ユーザの設定を行います。

コマンド名	user admin id	
タイトル	管理者用ユーザ ID の設定	
説明	管理者のユーザ ID を設定します。	
書式	user admin id {id}	
パラメータ	{id}	管理者用ユーザ ID(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:admin)

コマンド名	user admin password	
タイトル	管理者用パスワードの設定	
説明	管理者のパスワードを設定します。	
書式	user admin password {password}	
パラメータ	{password}	管理者用パスワード(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:空白)

9. PC カードスロット用設定コマンド

PC カードスロットの設定を行います。

コマンド名	card air11 node	
タイトル	通信相手の登録	
説明	相手先を限定して通信したいときに、通信する相手先の MAC アドレスを登録します。32 件まで登録できます。登録した直後から、登録した相手とだけ通信できるようになります。 通信相手先を 1 件でも登録すると、登録していない相手とは通信できなくなります。これにより、意図しない相手との接続を制限することができます。	
書式	card air11 node {macaddress}	
パラメータ	{macaddress}	登録する相手の MAC アドレス ※ XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力します。

コマンド名	card air11 channel	
タイトル	通信チャネルの設定	
説明	無線ネットワークで使用する通信チャネルを選択します。本製品と無線で通信する機器すべてに、同じ通信チャネルを設定してください。 ＜メモ＞ 本製品では、1～14 の間で通信チャネルを設定できます。他の無線ネットワークと通信チャネルが重なると、通信速度が下がるなどの影響を受ける場合があります。そのときは、本製品の通信チャネルを変更してください。他の無線ネットワークの影響を受けないためには、6 チャネル以上離して設定することをお勧めします。例えば、他の無線ネットワークの通信チャネルが「1」の場合、「7～14」の間で設定します。	
書式	card air11 channel {channel}	
パラメータ	{channel}	1～14　通信チャネル(初期値:6)

コマンド名	card air11 ssid	
タイトル	SSID の設定	
説明	無線ネットワークを区別するための ID を入力します(半角英数字で 32 桁まで)。本製品と無線で通信する機器すべてに、同じ SSID を入力します。 ＜メモ＞ 購入時には、「MN80211BXXXXXX」という SSID が設定されています。「XXXXXX」には、本製品の MAC アドレスが入ります。MAC アドレスには、0～9 の数字と A～F のアルファベットが使われています。 例えば、製造番号が「1234.5600.12EF」の場合、SSID は「MN80211B0012EF」になります。	
書式	card air11 ssid {ssid}	
パラメータ	{ssid}	SSID(半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。)(初期値:MN80211Bxxxxxx、xxxxxx は MAC アドレスの下 6 桁の値)

コマンド名	card air11 security		
タイトル	セキュリティの設定 (無線ステルス)		
説明	SSID が空白のクライアントのアクセスを許可するかどうかを設定します。 「standard」を設定すると、SSID を空白にしているか、または「ANY」と設定しているパソコンからの接続を許可します。セキュリティのため、通常は「enhanced」を設定することをお勧めします。		
書式	card air11 security {security}		
パラメータ	{security}	enhanced	SSID 空白のクライアントのアクセスを拒否する(初期値) 無線ステルス:有効
		standard	SSID 空白のクライアントのアクセスを許可する 無線ステルス:無効

コマンド名	card air11 auth	
タイトル	データを暗号化する場合の認証方式の設定	
説明	データを暗号化する場合に使用する認証方式を設定します。購入時は Shared Key 認証を使用する設定になっています。ThinkPad i Series など一部の無線ネットワークでデータを暗号化するときは、Open System 認証を使用する設定にする必要があります。	
書式	card air11 auth {sharedkey | opensystem}	
パラメータ	{sharedkey|opensystem}	暗号化に使用する認証方式の種類 sharedkey　Shared Key 認証(初期値) opensystem　Open System 認証

コマンド名	card air11 superg mode	
タイトル	Super G 利用の設定	
説明	Super G モードを利用するかどうか設定します。 ※ Super G 機能は Windows 98 SE ではご利用になれません。	
書式	card air11 superg mode { off | on }	
パラメータ	{ off | on }	off　Super G モードを利用しない on　Super G モードを利用する (初期値)

コマンド名	card air11 superg burst	
タイトル	Super G 利用時のバーストパケット数の設定	
説明	Super G モードを利用する際に、バースト転送するパケット数(バーストパケット数)を設定することができます。ここで設定したパケット数までバーストモードでデータを転送するため、数値を大きくすることにより、環境によってはスループットを改善できる場合があります。 ※ バーストパケット数を大きくすると、その分無線帯域を占有してしまうため、他の無線端末の通信待ち時間が増えてしまいます。設定値にはご注意ください。	
書式	card air11 superg burst { num }	
パラメータ	{ num }	2-255　バーストするパケット数 (初期値 = 3)

コマンド名	card air11 wep key128	
タイトル	128bit キーの登録	
説明	暗号化するときに使用する 128bit キーを登録します。	
書式	card air11 wep key128 {knumber} {key}	
パラメータ	{knumber}	1～4 WEP key 番号
	{key}	使用する 128bit キー (初期値:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00) ※ XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力します。設定できるのは、128bit のうちの 104bit(＝26 文字)です。 ※ 本製品側とパソコン側で、同じ 128bit キーを設定してください。128bit キーが一致しているときのみ通信できます。

コマンド名	card air11 wep key152	
タイトル	152bit キーの登録	
説明	暗号化するときに使用する 152bit キーを登録します。	
書式	card air11 wep key152 {knumber} {key}	
パラメータ	{knumber}	1～4 WEP key 番号
	{key}	使用する 152bit キー (初期値:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00) ※ XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力します。設定できるのは、152bit のうちの 128bit(＝32 文字)です。 ※ 本製品側とパソコン側で、同じ 152bit キーを設定してください。152bit キーが一致しているときのみ通信できます。

コマンド名	card air11 wep key64	
タイトル	64bit キーの登録 ※40bit キーから名称変更しました	
説明	データを暗号化するための 64bit キーを設定します。本製品と無線で通信する機器すべてに、同じキーを設定してください。設定できるのは、64bit のうちの 40bit です。 キーは 4 種類設定できます。1～4 のそれぞれについて「XX:XX:XX:XX:XX」の形式で入力します。 ※1～4 の 64bit キーは、パソコン側で生成された順番どおりに入力してください。	
書式	card air11 wep key64 {knumber} {key}	
パラメータ	{knumber}	1～4 WEP key 番号
	{key}	使用する 64bit キー(初期値:00:00:00:00:00) ※ XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力します。

コマンド名	card air11 wep keylength
タイトル	WEP キーの種類の設定

説明	暗号化するときに使用するWEPキーの種類(64bitキー、128bitキー、または152bitキー)を設定します。購入時は64bitを使用する設定になっています。	
書式	card air11 wep keylength {64 | 128 | 152}	
パラメータ	{64 | 128 | 152}	暗号化に使用するWEPキーの種類 64　64bitキー(初期値) 128 128bitキー 152 152bitキー

コマンド名	card air11 wep use	
タイトル	データ暗号化の設定	
説明	データを暗号化するかしないかを設定します。	
書式	card air11 web use {disable | dynamic}	
パラメータ	{disable | dynamic}	disable　暗号化しない(初期値) dynamic　暗号化する

コマンド名	card air11 wep default key64	
タイトル	標準キーの設定	
説明	利用する64bitキーの番号を選択します。標準キーは、本製品側とパソコン側で同じである必要はありません。それぞれが設定した標準キーに対応する64bitキーの内容が一致してれいば通信できます。 ＜メモ＞ 64bitキーと標準キーが他の無線ネットワークと一致したことが原因で生じたトラブルについては、弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。	
書式	card air11 wep default key64 [{knumber}]	
パラメータ	{knumber}	1～4 使用する標準キー(初期値:1)

コマンド名	card air11 wep default key128	
タイトル	標準キーの設定	
説明	利用する128bitキーの番号を選択します。標準キーは、本製品側とパソコン側で同じである必要はありません。それぞれが設定した標準キーに対応する128bitキーの内容が一致してれいば通信できます。 ＜メモ＞ 128bitキーと標準キーが他の無線ネットワークと一致したことが原因で生じたトラブルについては、弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。	
書式	card air11 wep default key128 [{knumber}]	
パラメータ	{knumber}	1～4 使用する標準キー(初期値:1)

コマンド名	card air11 wep default key152	
タイトル	標準キーの設定	
説明	利用する 152bit キーの番号を選択します。標準キーは、本製品側とパソコン側で同じである必要はありません。それぞれが設定した標準キーに対応する 152bit キーの内容が一致してれいば通信できます。 ＜メモ＞ 152bit キーと標準キーが他の無線ネットワークと一致したことが原因で生じたトラブルについては、弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめ了承ください。	
書式	card air11 wep default key152 [{knumber}]	
パラメータ	{knumber}	1～4 使用する標準キー(初期値:1)

コマンド名	card air11 wpa auth	
タイトル	認証方式の設定	
説明	WPA-PSK の Pre Shared Key を使用して認証するかどうか、つまり、WPA-PSK を利用するかどうかを設定します。	
書式	card air11 wpa auth { off | psk }	
パラメータ	{ off | psk }	off　認証しない＝WPA を利用しない(初期値) psk　Pre Shared Key を使用して認証する(暗号化方式は TKIP または AES のみ有効)

コマンド名	card air11 wpa encrypt	
タイトル	暗号化方式の設定	
説明	暗号化方式として、WEP64/WEP128/WEP152 (WPA 認証を利用しない場合のみ)、TKIP/AES(WPA 認証が PSK の場合のみ)のいずれかを選択できます。	
書式	card air11 wpa encrypt { off | wep64 | wep128 | wep152 |tkip | aes }	
パラメータ	{off|wep64|wep128|wep152|tkip|aes}	off　暗号化を行わない (WPA 認証がなしの場合のみ) (初期値) wep64　WEP64bit を使用して暗号化する(WPA 認証がなしの場合のみ) wep128　wep128bit を用いて暗号化する(WPA 認証がなしの場合のみ) wep152　wep152bit を用いて暗号化する(WPA 認証がなしの場合のみ) tkip　TKIP を用いて暗号化する(WPA 認証が PSK の場合のみ) aes　AES を用いて暗号化する(WPA 認証が PSK の場合のみ)

コマンド名	card air11 wpa keychg
タイトル	鍵の変更間隔の設定(秒)
説明	暗号化方式として TKIP または AES を選択した場合、暗号化の鍵を変更する間隔を設定できます。暗号化の鍵を一定間隔で変更することにより、より強固なセキュリティが確保できます。 数値を小さくすると、鍵の更新が頻繁に行われるため、セキュリティは強固になりますが、スループットが低下します。数値を大きくすると、鍵の更新間隔が空くため、セキュリティは弱くなりますが、スルー

	プットは向上します。	
書式	card air11 wpa keychg { 0 |30-99999 }	
パラメータ	{ 0-99999 }	0　鍵は変更しない 30-99999　指定された秒毎に鍵を変更する(99999＝約 27 時間) (初期値:1800)

コマンド名	card air11 wpa psk	
タイトル	Pre Shared Key の設定	
説明	WPA 認証で使用される「Pre Shared Key」を設定します。	
書式	card air11 wpa psk { key }	
パラメータ	{ key }	key　英数字記号(8-63 文字) ※ 両端を"(ダブルクォーテーション)で囲むことで空白文字(スペース)も設定できます。 ※ "(ダブルクォーテーション)自体や'\'は'\'でエスケープすれば設定することができます。 ※ 外部から推測されにくいものを設定してください。

コマンド名	card modem model
タイトル	モデムカードの選択
説明	使用するモデムカードを選びます。 p-in ... NTT DoCoMo P-in Comp@ct, P-in m@ster p-memory ... NTT DoCoMo P-in memory p-in-f1s ... NTT DoCoMo P-in Free 1S p-in-f1p ... NTT DoCoMo P-in Free 1P foma ... NTT DoCoMo FOMA P2401 sii ... SII CH-S202C nec ... NEC AH-N401C honda ... HONDA ELECTRON AH-H403C omron ... OMRON VIAGGIO ME5614CG2 io-data ... IO DATA PCML-560EL その他のモデムカードを使用するときは、「その他」を選びます。
書式	card modem model {model}

パラメータ	{model}	generic その他 p-in NTT DoCoMo P-in Comp@ct, P-in m@ster p-memory NTT DoCoMo P-in memory p-in-f1s NTT DoCoMo P-in Free 1S p-in-f1p NTT DoCoMo P-in Free 1P foma NTT DoCoMo FOMA P2401 sii SII CH-S202C nec NEC AH-N401C honda HONDA ELECTRON AH-H403C omron OMRON VIAGGIO ME5614CG2 io-data IO DATA PCML-560EL

コマンド名	card modem speed	
タイトル	通信速度	
説明	通信速度を選びます。9600、19200、38400、57600、115200(bps)の中から選択します。使用するモデムカードが対応している通信速度を選択します。	
書式	card modem speed {speed}	
パラメータ	{speed}	9600 9600bps 19200 19200bps 38400 38400bps 57600 57600bps 115200 115200bps(初期値)

コマンド名	card modem tonecheck	
タイトル	ダイヤルトーン検出の設定	
説明	「ダイヤルトーンを待ってから発信する」か「ダイヤルトーンを待たずに発信する」のどちらかを選びます。 ダイヤルトーンを認識できない場所から発信する場合や、手動でダイヤルする必要がある場合は、「ダイヤルトーンを待たずに発信する」を選びます。ただし、使用するモデムカードによっては、この機能をサポートしていないことがあります。	
書式	card modem tonecheck {off | on}	
パラメータ	{off | on}	off ダイヤルトーンを待たずに発信する on ダイヤルトーンを待ってから発信する(初期値)

コマンド名	card modem dial
タイトル	ダイヤル方法の設定
説明	「トーン」か「パルス」のどちらかを選びます。

	電話回線がパルス方式にしか対応していない場合は、「パルス」を選びます。	
書式	card modem dial {mode}	
パラメータ	{mode}	tone　トーン(初期値) pulse パルス

コマンド名	card modem answer	
タイトル	応答モードの設定	
説明	着信要求が来た場合、応答するかどうかの設定をします。	
書式	card modem answer {mode}	
パラメータ	{mode}	off　応答しない modem 応答する(初期値)

コマンド名	card modem errcorrect	
タイトル	エラー訂正／データ圧縮	
説明	モデムカードに内蔵されているエラー訂正やデータ圧縮を使用するかどうかを選択します。	
書式	card modem errcorrect {mode}	
パラメータ	{mode}	off　使用しない only　エラー訂正のみ使用 both　エラー訂正／データ圧縮を使用(初期値)

コマンド名	card modem ring	
タイトル	応答までの RING 回数	
説明	着信してから応答するまでの RING の回数を入力します。1～20 の間で設定できます。	
書式	card modem ring {count}	
パラメータ	{count}	1～20　応答までの RING 回数(初期値:2)

コマンド名	card modem command
タイトル	追加設定
説明	[モデム]で「その他」を選択した場合に、使用するモデムのマニュアルに従って必要な AT コマンドを入力します。 少なくとも、次の設定が必要です。なお、[ダイヤルトーン検出][ダイヤル方法][エラー訂正／データ圧縮]で設定した内容は、無効になります。 ・DTR 信号オフ時の制御:回線切断 ・応答コード形式:単語形式(英単語応答) ・エコーバック:なし ・フロー制御方式:ハードウェアフロー制御

	・DCD信号の制御:DCD信号は回線接続中オン	
書式	card modem command {command}	
パラメータ	{command}	追加設定の文字列(64文字まで。ATは不要です。)(初期値:空白)

コマンド名	card test
タイトル	カードのテスト
説明	モデムカードのテストを行います。AT コマンドを送信し、モデムカードから応答があればモデムカードは正しく動作しています。応答が無ければエラーメッセージが返されます。
書式	card test
パラメータ	なし

10. WAN ポート用設定コマンド

コマンド名	wan ether ip address	
タイトル	WAN ポートの IP アドレスの設定	
説明	CATV インターネットや ADSL のプロバイダから割り当てられた IP アドレスとサブネットマスク長を入力します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。	
書式	wan ether ip address {address}[/{mask}]	
パラメータ	{address}	IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)(初期値:0.0.0.0)
	{mask}	サブネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)(初期値:24)

コマンド名	wan ether ip dnsserver	
タイトル	WAN ポートの DNS サーバアドレスの設定	
説明	CATV インターネットや ADSL のプロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。	
書式	wan ether ip dnsserver {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリ DNS サーバアドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)(初期値:空白)
	{secondary}	セカンダリ DNS サーバアドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)

コマンド名	wan ether ip gateway	
タイトル	WAN ポートのゲートウェイアドレスの設定	
説明	CATV インターネットや ADSL のプロバイダから指定されたゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。	
書式	wan ether ip gateway {address}	
パラメータ	{address}	ゲートウェイアドレス(xxx.xxx.xxx.xxx、xxx は 10 進数)(初期値:空白)

コマンド名	wan ether ip dhcpc function	
タイトル	WAN ポートの DHCP クライアント機能の設定	
説明	WAN ポートの IP アドレスをプロバイダの DHCP サーバから割り当ててもらうか、プロバイダからあらかじめ通知された固定の IP アドレスを手入力するかを選択します。	
書式	wan ether ip dhcpc function {on|off}	
パラメータ	{on | off}	on　DHCP サーバから取得する off　手入力(初期値)

コマンド名	wan ether ip dhcpc id	
タイトル	WANポートのDHCPクライアントIDの設定	
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらう場合、CATV インターネットやADSLのプロバイダからクライアントIDを指定されているときは、そのクライアントID を入力します。	
書式	wan ether ip dhcpc id {id}	
パラメータ	{id}	クライアントID(英数字64文字まで、初期値:空白)

コマンド名	wan ether ip dhcpc release
タイトル	WANポートのIPアドレスの解放
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらっている場合、割り当てられたIPアドレスを解放します。
書式	wan ether ip dhcpc release
パラメータ	なし

コマンド名	wan ether ip dhcpc get
タイトル	WANポートのIPアドレスの取得
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらう場合、IPアドレスを取得します。
書式	wan ether ip dhcpc get
パラメータ	なし

コマンド名	wan ether ip mode	
タイトル	WAN側接続モード設定	
説明	WAN側接続モードを設定します。 ブロードバンドを使用し、CATV インターネットやPPPoEを採用していないプロバイダと接続するときに、LAN内の端末にグローバルIPアドレスを設定し、NAT変換を行わない環境を構築できます。	
書式	wan ether ip mode {lan|terminal}	
パラメータ	{lan | terminal}	lan LAN型接続 terminal 端末接続(初期値)

コマンド名	wan ether ip mtu	
タイトル	WAN側MTU値設定	
説明	WANポートのMTUの値を設定します。	
書式	wan ether ip mtu {mtu_value}	
パラメータ	{mtu_value}	540～1500 MTU値 (初期値:0) ※0の場合、内部的に標準値の1500が使用されます

11. Universal Plug and Play 用設定コマンド

コマンド名	upnp	
タイトル	UPnP 機能の設定	
説明	UPnP 機能を使用するかどうかを選択します。	
書式	upnp {on | off}	
パラメータ	{on | off}	on　　UPnP 機能を使用する(初期値) off　UPnP 機能を使用しない

コマンド名	upnp autodel	
タイトル	UPnP ポート自動削除設定	
説明	UPnP のポートを自動削除する時間を設定します。	
書式	upnp autodel {time}	
パラメータ	{time}	自動削除時間(0:自動削除しない、1～24(時間))(初期値:0)

コマンド名	upnp pmdel
タイトル	UPnP ポートマッピングテーブル消去
説明	UPnP ポートマッピングテーブルのすべてのエントリを消去します。
書式	upnp pmdel
パラメータ	なし

12. TA 設定用コマンド

コマンド名	ta answer	
タイトル	TA への着信の設定	
説明	TA 機能で着信するかどうかを設定します	
書式	ta answer {off|on}	
パラメータ	{off|on}	off　TA へ着信しない on　TA へ着信する(初期値)

コマンド名	ta dte mode	
タイトル	DTE ポートの動作モードの設定	
説明	DTE ポートを TA 機能として使用するか、コンソールとして使用するかを設定します。	
書式	ta dte mode {mode}	
パラメータ	{mode}	dte　TA 機能として使用する(初期値) console　コンソールとして使用する

コマンド名	ta dte speed	
タイトル	DTE ポートの通信速度	
説明	DTE ポートの通信速度を設定します。 ＜注意＞ 1) 本設定は本製品の電源を入れ直した後に有効となります。設定を有効にする場合は必ず本製品の電源を入れなおしてください。 2) 使用するターミナルソフトのポートの速度の設定をここで設定した速度に合わせてください。設定を変更した場合は、ターミナルソフトのポートの速度の設定も併せて変更してください。 3) 本製品のシリアル(DTE)ポートはポート速度の自動判別機能はサポートしていません。	
書式	ta dte speed {speed}	
パラメータ	{speed}	DTE ポート通信速度 9600　9600bps 固定 19200　19200bps 固定 38400　38400bps 固定 57600　57600bps 固定 115200　115200bps 固定(初期値)

13. その他コマンド

下記のコマンドは、TELNET で本製品にアクセスした場合のみ使用可能なコマンドです。

コマンド名	exit logout
タイトル	現在のセッションの終了
説明	telnet で本製品にアクセスしている場合、本製品との現在のセッションを終了します。
書式	exit logout
パラメータ	なし

コマンド名	help ?
タイトル	コマンド一覧の表示
説明	本製品のコマンドの一覧を表示します。
書式	help ?
パラメータ	なし

コマンド名	history
タイトル	コマンド履歴の表示
説明	本製品に入力されたコマンドの履歴を表示します。
書式	history
パラメータ	なし

コマンド名	reboot
タイトル	本体の再起動
説明	本体を再起動します。
書式	reboot
パラメータ	なし

コマンド名	adjust
タイトル	時刻修正を今すぐ実行
説明	時刻修正の設定に従って、時刻修正をすぐに実行します。
書式	adjust
パラメータ	なし

コマンド名	bunner	
タイトル	バナー表示の設定	
説明	バナー表示を設定します。 設定ページのオプション欄にも指定可能。	
書式	bunner mode {off ｜ on}	
パラメータ	{off ｜ on}	off バナーを表示しない on　バナーを表示する （初期値）

コマンド名	connect	
タイトル	相手先へ手動で発信	
説明	相手先に手動で発信します。	
書式	connect {rnumber}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号(登録番号#0～#15)

コマンド名	disconnect	
タイトル	相手先との通信を手動で切断	
説明	相手先との通信を手動で切断します。	
書式	disconnect {channel}	
パラメータ	{channel}	all　すべてを切断 b1　ISDN B1 チャネルを切断 b2　ISDN B2 チャネルを切断 pptp1　PPTP1 チャネルを切断 pptp2　PPTP2 チャネルを切断 pccard　モデムカードチャネルを切断 pppoe1　PPPoE1 チャネルを切断 pppoe2　PPPoE2 チャネルを切断 pppoe3　PPPoE3 チャネルを切断 pppoe4　PPPoE4 チャネルを切断

コマンド名	erase
タイトル	設定の消去
説明	設定を消去します。
書式	erase {paramerter}

パラメータ	{paramerter}	all	すべての設定を消去
		analog	すべてのアナログ設定を消去
		analogport	アナログ設定(ポートごと)を消去
		analogcomm	アナログ設定(ポート共通)を消去
		analogdin	アナログ設定(ダイヤルイン)を消去
		charge	通信料金情報消去
		history	接続／切断ログ情報を消去
		ip	IP 設定を消去
		isdn	ISDN 設定を消去
		mail	メール着信通知設定を消去
		remote [0..15]	相手先設定を消去
		router	ルータ設定(アナログ設定以外)を消去
		sys	本体設定を消去
		ta	TA 設定を消去
		user	ユーザ設定を消去
		card	すべての PC カード設定を消去
		cardair11	PC カード設定(無線 11M カード)の設定を消去
		airstat11	無線状況(11M)の統計情報を消去
		cardmodem	PC カード設定(モデムカード)を消去
		wanether	WAN ポートの設定を消去
		upnp	UPnP の設定を消去
		※teldir, teldirent, predial, mail1, mail2, pmail, rvscom, webboard, cardaircom, cardether パラメータはサポートされません。	

コマンド名	no	
タイトル	指定の設定を取り消す	
説明	指定した設定を取り消します。	
書式	no {parameter}	
パラメータ	{parameter}	取り消す設定内容

コマンド名	nslookup	
タイトル	ドメイン名の解決要求を実行	
説明	ドメイン名の解決要求を実行します。	
書式	nslookup {domain-name | address}	
パラメータ	{domain-name|address}	ドメイン名、または、IP アドレス

コマンド名	ping	
タイトル	ICMP エコーの実行	
説明	ICMP エコーを送信します。	
書式	ping {name ｜ address}	
パラメータ	{name ｜ address}	ホスト名、または、IP アドレス

コマンド名	save
タイトル	設定情報の保存
説明	設定情報をフラッシュメモリに保存します。
書式	save
パラメータ	なし

コマンド名	show		
タイトル	設定情報の表示		
説明	各種設定情報を表示します。		
書式	show {parameter}		
パラメータ	{parameter}	djust	時刻修正を最後に行った日時の表示
		charge	通信料金情報の表示
		config	設定情報一覧の表示
		history	接続・切断ログ情報の表示
		ip arp	ARP テーブルの表示
		ip dhcp	DHCP 情報の表示
		ip dns	「AutoDNS」情報の表示
		ip route	IP 経路情報の表示
		ip status	IP の状態の表示
		ip udp	UDP の状態の表示
		limit	制限情報の表示
		mail	着信メール情報の表示
		ppp	PPP ステータス情報の表示
		remote list	接続相手先リストの一覧を表示
		status	接続状況の表示
		time	本体の日付と時刻の表示
		uptime	本体稼働時間の表示
		version	ファームウェアバージョンの表示
		l1	レイヤ1ステータス情報の表示
		pccard	PC カード状況の表示

		air　無線側機器情報の表示 upnp　UPnP 情報の表示 wanether　WAN ポート情報の表示 ※dcp, pmail, teldir, webboard, ether, usb パラメータはサポートしません。

コマンド名	traceroute	
タイトル	指定アドレスへの経路を調べる	
説明	指定アドレスへの経路を調べる	
書式	traceroute {name ｜ address}	
パラメータ	{name ｜ address}	ホスト名、または、IP アドレス

コマンド名	reset		
タイトル	自動接続制限のリセット		
説明	自動接続制限の制限事項をリセットします。		
書式	reset {parameter}		
パラメータ	{parameter}	exceed [0..15]	超過した項目のみをリセット("*"の場合はすべての相手先)
		all [0..15]	すべての項目をリセット("*"の場合はすべての相手先)

説明	相手先番号を指定して切断を行います	
書式	rmtdisc {remote number}	
パラメータ	{remote number}	相手先番号